

PROFILE M.

名古屋大学

医学部・大学院医学系研究科

プロフィール M 2013

2013

NAGOYA UNIVERSITY  
Graduate School of Medicine, and  
School of Medicine

U



# 名古屋大学

## 医学部の理念

---

- 1** 人類の健康の増進に寄与する  
先端的医学研究を進め、新たな医療技術を創成する。
- 2** 医の倫理を尊重し、人類の幸福に  
貢献することを誇りとする医学研究者及び医療人を育成する。
- 3** 医学研究、医療の両面にわたり  
諸施設と共同して、地域社会の医療の質を高めるとともに、  
我が国及び世界の医療水準の向上に資する。
- 4** 医学研究及び医療の中軸として  
機能するために、人的・社会的資源を有効に活用し、  
世界的に開かれたシステムを構築する。



### 医学部のシンボルマークについて

3羽の鶴をあしらったもので、  
それぞれに愛(人間愛)・和(協調)・誠(誠実)を象徴しています。  
これは、医の真髄、医学研鑽の心構えとして  
医師が継承すべきものという意味が込められています。

PROFILE **M.**  
2013 NAGOYA UNIVERSITY  
Graduate School of Medicine, and  
School of Medicine  
Contents

PROFILE MのMには、  
Medicine (医学)、私たちの担う  
Mission (使命)、この地域をさす  
Midland (中部) など、さまざまな  
私たちの想いが込められています。

02	ご挨拶
05	特集トピックス
06	—— 若手研究者育成
08	—— 先端医療・臨床研究支援センター
10	—— クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC)
12	—— 総合医学専攻
14	—— 国際交流の促進①
16	—— 国際交流の促進②
18	—— 国際交流の促進③
20	—— 神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
22	—— 脳とこころの研究センター
24	沿革
26	歴代医学部長

---

27	<b>教育・研究組織</b>
28	機構図
29	役職員
30	<b>鶴舞キャンパス</b>
32	大学院医学系研究科
32	—— 博士課程
36	—— 研究者養成コース (MD・PhDコース、卒直後コース)
37	—— 連携講座
38	—— 寄附講座
42	—— 修士課程
44	医学部 医学科
45	附属施設
47	<b>大幸キャンパス</b>
48	大学院医学系研究科 博士課程
50	医学部 保健学科

---

51	<b>データ集</b>
69	<b>ロケーション</b>

---



医学系研究科長・医学部長

高橋 雅英 TAKAHASHI, Masahide

名古屋大学医学部・大学院医学系研究科の2013年度プロフィールを発行するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

名古屋大学医学部は、1871年(明治4年)に名古屋藩の仮病院、仮医学校として発足して以来、約140年の歴史と伝統を持つ、我が国で最も古い医学部の1つです。名古屋大学は1939年に医学部と理工学部からなる7番目の帝国大学となり、第2次世界大戦後の1949年に新制名古屋大学として再出発しました。

医学部は1997年に医学部保健学科が設置され、医学科と保健学科からなる2学科制になりました。2000年には大学院重点化が完了し、大学院大学として医学系研究科を、基礎と臨床を融合した分子総合医学、細胞情報医学、機能構築医学、健康社会医学の4専攻に再編を行いました。さらに本年度からはこの4専攻を総合医学専攻という1専攻に再編し、基礎医学領域、臨床医学領域、統合医薬学領域の3つの領域を設置することになりました。統合医薬学領域には創薬研究、臨床医学研究を推進するため、生物統計学分野とトキシコゲノミクス分野という新たな教室を立ち上げたところです。また、統合医薬学領域にはノバルティスファーマ、アステラス製薬という製薬企業の協力による産学連携講座、名城大学大学院薬学研究科との連携講座、統計数理研究所や医薬品医療機器総合機構との連携講座などを新設し、創薬分野で活躍する人材育成や日本が弱いと指摘されている臨床治験を推進できる人材育成に力をいれる所存です。

このような医学系研究科の再編とともに本年度は医系研究棟3号館が完成予定であり、教育、研究基盤を支える施設整備にも力をいれています。3号館には学生用解剖実習室、組織・病理実習室、ラジオアイソトープセンター、共通機器センターが整備されるとともに、寄附講座や産学連携講座を含む様々なプロジェクト研究のためのスペースが確保されます。上記した統合医薬学領域に新設される生物統計学分野とトキシコゲノミクス分野も3号館に設置され、教育・研究環境の一層の充実が実現できます。

本年度の医学系研究科の大きなミッションの1つとして、研究レベルでの国際化も推進していきたいと考えています。2013年1月に行ったウィーン医科大学とのシンポジウムに引き続き、5月にはオーストラリア、アデレード大学でシンポジウムを開催し、医学系研究科からも多くの研究者が参加し、両大学との交流を深めてきました。今後、国際的な共同研究推進の必要性がますます高まってくると予想され、このようなシンポジウムも定期的で開催していきたいと思っています。

活力ある医学部・医学系研究科をめざし、一層努力していく所存ですので、引き続き皆様の力強いご支援を賜りますよう、よろしくご挨拶申し上げます。



保健学統括専攻長・保健学科長

榊原 久孝 SAKAKIBARA, Hisataka

名古屋大学医学部保健学科は、1997年に、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の5専攻を有する、全国でも数少ない医学部保健学科として設置されました。その源流は、1894年(明治27年)愛知医学校に看護婦養成所が設置されたことに始まり、100年以上の歴史を有しています。2012年4月には、大学院中心の教育研究組織へと組織強化を行い、大学院医学系研究科 看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻として、一層の教育研究の充実を図っています。

現代の医学医療では、高度先進医療の発展は著しく、一方で緩和ケアや終末期医療など患者家族の生活の質(QOL)を重視した包括的保健医療福祉も求められています。保健医療分野の教育研究の発展は、少子高齢社会の中で社会的要請でもあります。名古屋大学では、将来の保健医療を担うリーダーとなりうる中核的人材を育成するとともに、21世紀の保健医療の新たな発展につながる保健医療研究の推進を目指しています。

名古屋大学では、大学院教育として、本学独自の「トータルヘルスプランナー(THP)養成コース」(2007年文部科学省大学院GP)を開設し、多職種連携によるチーム医療推進を視野に入れた人材育成を図っています。2012年度からは、大学院共通教育カリキュラム全体を専攻横断型に新しく再編成し、大学院教育の充実を図りました。

高度医療専門職の育成では、がん看護専門看護師および小児看護専門看護師(CNS)養成課程を設置し、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」によりがん看護専門看護師、放射線治療専門放射線技師、医学物理士の育成を行っています。また文部科学省「看護師の人材養成システムの確立」では、名古屋大学医学部附属病院との連携による人材育成、教育研究の発展に努めています。

また、教育の国際化に対応して、2010年より韓国延世大学校の保健学・看護学部門との国際交流事業を開始し、学術研究交流会を毎年交互の大学で開催しています。2011年からは看護学専攻で、延世大学校、上海交通大学、シンガポール国立大学などとの間で、学部生の看護臨床研修の相互受け入れを開始しました。

研究面では、2011年に設置された「脳とこころの研究センター」を中心に、磁気共鳴画像装置(MRI)と脳磁計(MEG)を活用した研究推進を目指しています。2012年度からは、医工・産学連携拠点である「予防早期医療創成センター」の運営にも加わり、より幅広い研究プロジェクトの展開を図っています。

卒業生は、医療機関や教育機関で将来を担う中核として活躍しています。保健学関連の教育研究の一層の発展に尽力し、現代の保健医療の進歩に貢献したいと考えます。

鶴舞キャンパス 医系研究棟 1号館・2号館



医学部附属病院



大幸キャンパス 保健学科本館



# 特集トピックス

## 「世界最高水準の卓越した 研究・教育拠点の形成を目指して」

名古屋大学医学部・大学院医学系研究科では、国際的な研究大学としての社会的な責任を果たしていくために、国際的な人材養成の取り組みを一層加速させるとともに、世界最高水準の学術研究推進の基盤づくりとして、分野融合研究や大型プロジェクトの推進、基礎から臨床に至る研究体制・環境の強化、研究成果の社会への還元を目指して、様々な取り組みを展開している。

そのなかで、最新の取り組みを紹介する。

・若手研究者育成	06
・先端医療・臨床研究支援センター	08
・クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC)	10
・総合医学専攻	12
・国際交流の促進①	14
・国際交流の促進②	16
・国際交流の促進③	18
・神経疾患・腫瘍分子医学研究センター	20
・脳とこころの研究センター	22

# 「名古屋大学医学部学生研究会 (LOVE LAB)」

基礎医学研究者育成プロジェクト 名古屋大学医学部学生研究会 特任助教 黒田 啓介

## 研究医不足という、もう一つの医師不足

近年、日本全国で医師の不足や、それに伴う地域医療の崩壊が問題となっています。外科医や小児科医、産婦人科医や麻酔科医といった臨床医の不足は、テレビや新聞上で報道され、社会問題として取り上げられています。一方、一方で研究を行う医者、その中でも特に基礎医学研究を行う医者が減少している問題は、これまであまり注目されてきませんでした。しかし現在、基礎医学研究者を目指す若手医師の減少は深刻であり、長期的な視点で考えた場合、研究医の不足は日本の医学研究のレベルを低下させ、さらには医療水準の低下や医療費の増大、創薬産業や医療機器産業の国際競争力の低下を引き起こすと考えられます。

2012年度には京都大学の山中教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されましたが、この功績に続くような基礎医学研究者を輩出するためには、研究者の育成により一層の力を入れていく必要があります。

## 名古屋大学の取り組み

名古屋大学では、文部科学省の支援のもと、2011年

度より東京大学、京都大学、大阪大学と協力し、基礎医学研究者育成プロジェクトを開始しました。毎年数名程度の研究医を輩出することを目標にプロジェクトを進めており、学生の海外派遣制度の整備、大学院進学のための奨学金制度の整備を行うとともに、東海地区の他の医学部と連携するための研究医養成コンソーシアムを設立してきました。2012年度には、プロジェクト推進のために「名古屋大学医学部学生研究会」を立ち上げ、担当の専任教員を1名配置し、学生の研究活動に対して指導や支援を行うとともに、東海6大学研究医養成コンソーシアムの第1回リトリートを行いました。2013年度も引き続き、医学部学生研究会の活動を推進していきます。

## リサーチマインドの涵養

医療は高度な技術を提供するサービス業ですが、実際の現場において、より良い医療を提供するためには、有名な教科書や治療ガイドラインに詳しいだけでは不十分です。当たり前を疑い、背景を読み解き、経験を正しく分析する能力を身につけること、すなわちリサー





チマインド(探求心・研究の心構え)の涵養が必要です。また、1人でも多くの学生に研究の楽しさや重要性を知ってもらい、医学部全体で研究志向をもつことが、研究医育成において最も重要であると考えており、研究志望の学生だけでなく臨床志望の学生にも、本プロジェクトを通じて研究活動を経験しリサーチマインドを身につけて欲しいと希望しています。

### 名古屋大学医学部学生研究会の活動

名古屋大学では、若手研究者の養成のために、2012年度より「名古屋大学医学部学生研究会(LOVE LAB)」をスタートさせました。学生研究会は、学部生を対象とした活動であり、名称の「学生研究会」とおり、学生の自主性に任せた、ちょうどサークル活動のように自由に参加できるような活動となっています。学生研究会は2つのコースに分かれています。

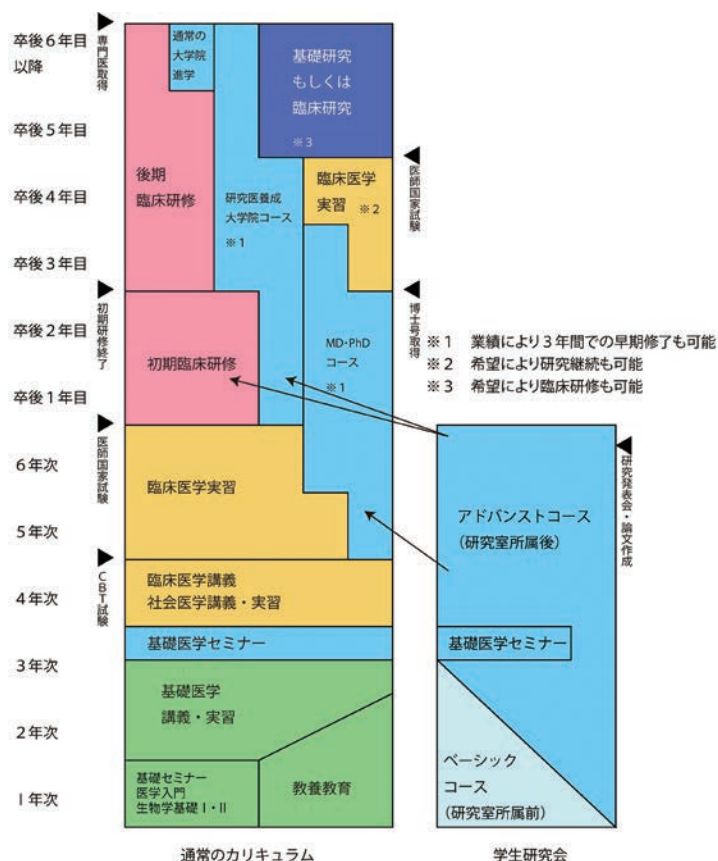
#### ベーシックコースの活動

研究に興味のある学部生が対象です。医学部の教授陣が、自身の研究歴や研究内容を紹介し、研究活動の

楽しさを伝えリサーチマインドに触れてもらいます。論文の読み方や、研究計画の立て方、実験の進め方などについてのセミナーも行います。また、研究活動を希望する学生に、研究室の見学を斡旋します。

#### アドバンストコースの活動

研究医を志して実際に研究活動を行っている学部生が対象です。毎月1回の進捗報告会を行うとともに、国内や海外の学会参加、研究室訪問に対して費用のサポートを行っています。また、他大学との交流を図るための研究発表会を兼ねたリトリート(合同合宿)を行っています。希望者には、MDPhD コースや、卒業後なるべく早い時期の大学院進学を斡旋します。



#### 終わりに

研究では、毎日試行錯誤しながら一生懸命取り組んでいると、ある日突然、素晴らしいアイデアを思いつくことがあります。そしてそのアイデアが実際に新しい発見につながった時の喜びは何物にも代えがたいものであり、それこそが研究の醍醐味であります。私たちは、医学部学生研究会の活動を通じて、一人でも多くの医学部生が研究活動にチャレンジし、研究の面白さを感じてもらえればと思っています。

#### 基礎医学研究者育成プロジェクト

#### 名古屋大学医学部学生研究会ホームページ

▶ <http://med.nagoya-u.ac/nsam/index.html>

# 「橋渡し研究支援拠点・臨床研究中核病院・中部先端医療開発円環コンソーシアム」

医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 病院教授 水野正明

名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センターは、附属病院の理念「診療・教育・研究を通して社会に貢献します」と、基本方針「次代を担う新しい医療を開拓します」にのっとり、シーズ発掘から保険診療に至るまでのプロセスを一貫通貫的に支援する組織です。

附属病院では、2012年から文部科学省「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」と厚生労働省「臨床研究中核病院整備事業」にそれぞれ採択され、橋渡し研究支援拠点、及び臨床研究中核病院としての機能が加わり、先端医療開発の質・量ともに向上することになりました。これに伴い、当センター内の機能分化も進め、先端医療支援部門が主に橋渡し研究支援拠点の機能を持ち、基礎研究からファースト・イン・ヒューマンま

でを担当し、臨床研究支援部門が主に臨床研究中核病院の機能を持ち、ファースト・イン・ヒューマン以降の臨床研究・治験までを担当することになりました。今後、中部先端医療開発円環コンソーシアムと合わせて、事業を推進していき、名古屋・中部地方から新しい医療を世界に発信します。

## ■橋渡し研究加速ネットワークプログラム（文部科学省）

本事業では、以下の3つの事業を通して、附属病院を中心とした持続可能なネットワーク型先端医療開発拠点を中部圏に形成します。

### ①橋渡し研究支援を行う拠点整備

プロジェクトマネージャーを中心に、臨床疫学者、生物統計家、弁理士、データマネージャー、モニタリング・

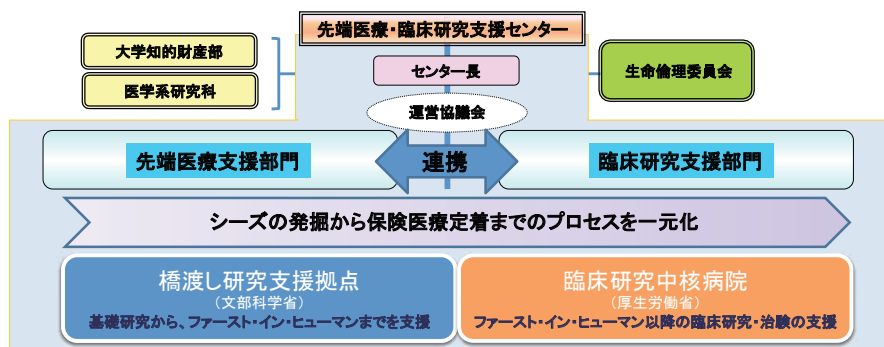
監査担当者、臨床研究コーディネーター等から構成される Design Buildup Team を組織し、規制当局との対話を密にして戦略的先端医療開発を実施します。

### ②拠点のシーズ育成能力の強化

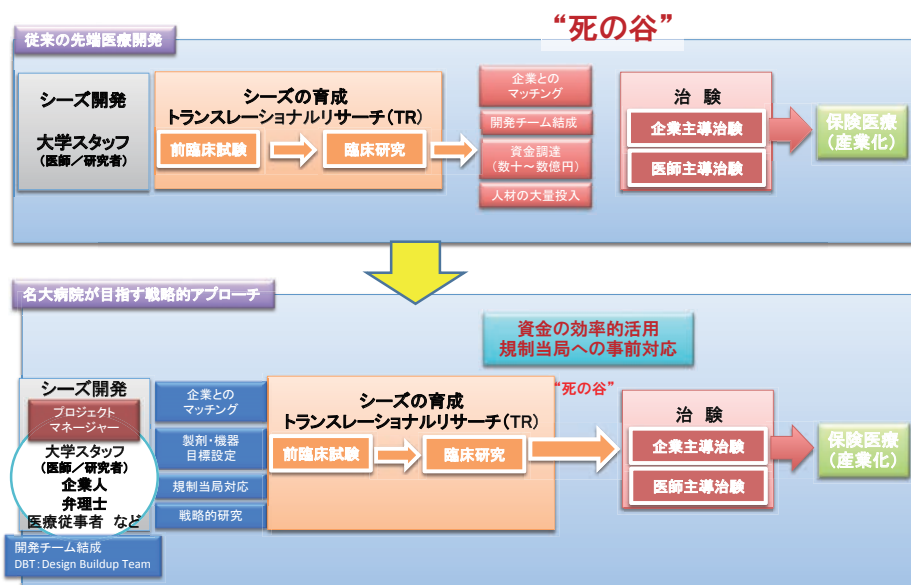
附属病院内にシーズ情報収集管理システムを構築し、中部圏のシーズ情報を集約するとともに進捗を管理することで、シーズの育成を加速します。

### ③恒久的な橋渡し支援拠点の確立

学内外にSMO (Site Management Organizations) 機能を提供できる体制を構築するとともに、病院収益を橋渡し研究に継続的に投資し、事業全体の収支バランスを整え、自立性を確保します。



先端医療・臨床研究支援センター内の組織体制



Design Buildup Team と戦略的先端医療開発

## ■臨床研究中核病院整備事業（厚生労働省）

本事業では、以下の4つの事業を通して、国際基準に沿った臨床研究推進体制を病院全体で実現し、わが国が先端医療開発において国際的なリーダーシップをとれるよう、実用化と産業化を加速します。

### ①シーズ発掘と育成の持続性

シーズの発掘や育成を持続的に行える体制を構築しています。

### ②臨床研究を担う人材育成

医師においては「シーズ開発のできる医師」及び「マネジメントができる医師」を中心に、また、医師以外の者においては「アカデミアの「知」を社会経済的価値に繋げる統合型能力人」を中心に教育し、多職種間連携を実現しています。

### ③臨床研究推進基盤の国際標準化（ICH-GCP）

ICH-GCP 水準による先進医療プロジェクトの実施を皮切りに、5年以内に附属病院が実施する臨床試験の100%ICH-GCP化を目指します。また、重篤な有害事象対応、並びに患者やその家族の支援体制を強化しています。

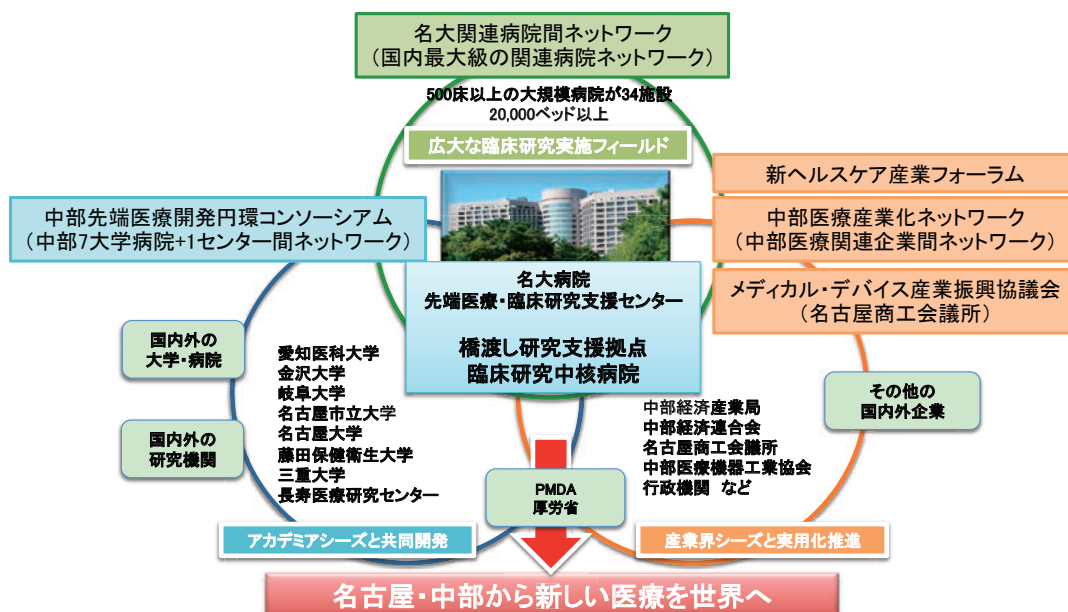
### ④優れたシーズの実用化と産業化

国内最大級の名大関連病院間ネットワークと中部先

端医療開発円環コンソーシアムのもつ広大な臨床研究フィールドを活用して、患者登録データベースを作成するとともに、治験を中心に戦略的臨床研究の推進を図っています。また、ICTを活用し、米国FDA等への対応も可能な電子基盤を構築しています。

## ■中部先端医療開発円環コンソーシアム

中部先端医療開発円環コンソーシアムは、「中部地域の大学が協働して、社会のニーズに応えた新たな医療技術や医療機器を迅速に開発し、いち早く患者に提供する。もって我が国のみならず人類の健康と平和に貢献すること」を目的に、愛知医科大学、金沢大学、岐阜大学、名古屋市立大学、名古屋大学、藤田保健衛生大学、三重大学の7大学と国立長寿医療研究センターの8施設が結集した組織です。ここでは、これらの目的を達成するため、1) 多施設共同による臨床試験の企画、調整、実施及び評価、2) 共同倫理審査委員会の開催、3) 先端医療開発に関わる人材の育成、4) 産学連携による企業とのマッチングと知的財産管理の支援をそれぞれ推進しています。



“産学官”による新しい先端医療開発体制

## 「クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC) の概要」

クリニカルシミュレーションセンター長 医学系研究科 総合医学教育学 教授 植村 和正

臨床教育を効果的に行うために、患者に見立てた人形や、その生体の一部(頸部の中心静脈、気管支、肘静脈など)を模した器材(シミュレーター)で手技を練習することは現在では一般的です。さらに、現実の医療現場を模した各種の疑似環境をチーム医療教育プログラムの中で活用することも広く行われています(フルスケールシミュレーショントレーニング)。この手法は職種を問わずその教育学的有効性が認められています。従来は、講義が終われば見学、次いで実習という業務下訓練(On the job training)が当然でしたが(Learning by doing)、現在の価値観からはそれは許容されなくなってきています。

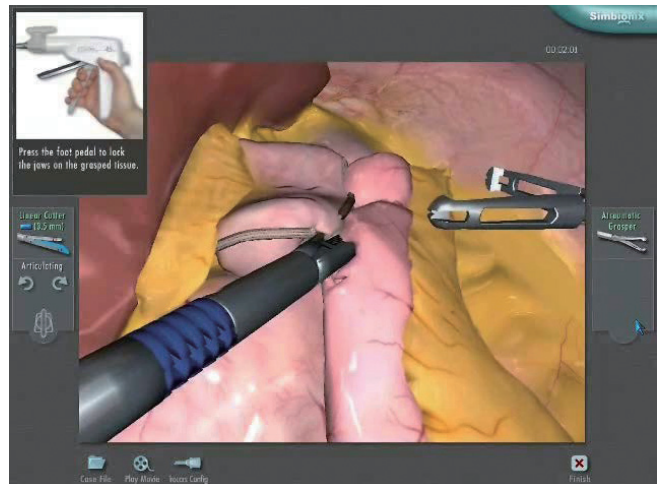
### 名古屋大学大学院医学系研究科附属クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC) の開設

名古屋大学では、2006年度にスキルス & ITラボラトリー(通称、スキルラボ)を開設しました。ここには、BLSやACLS講習会などで用いられる救命蘇生用のシミュレーターの他、眼底鏡や耳鏡、縫合や静脈注射、直腸診や乳房の触診などの技能訓練用の備品が整備されており、学生、研修医や新規採用の看護師、若手医師が年間2,000件弱、延べ人数で約20,000人が利用しています。しかし、外科治療分野のシミュレーターやトレーニングマシンは、ほとんど備えておらず、実臨床前のシミュレーター訓練が重要である今日では、それらは不可欠なものとして、その導入が待ち望まれていました。

そのような状況のなか、2012年度概算要求にて大型予算が措置され、外科治療分野を中心とした最新鋭のシミュレーターやトレーニングマシンが数多く導入されることになり、これまでのスキルラボを包摂・発展させたクリニカルシミュレーションセンター(NU-CSC)を開設しました。その最新鋭のシミュレーターのいくつかを紹介します。

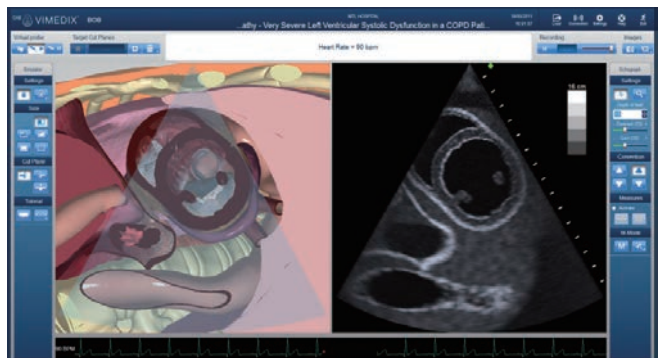
#### ・ 内視鏡手術シミュレーター

腹腔鏡下手術トレーニングシミュレーターは、最先端技術により実際の腹腔鏡下手技における視覚と触覚を疑似化しています。リアルな感覚で手術手順や合併症への対処法等を学ぶことができます。



#### ・ 超音波および内視鏡シミュレーター

経食道・経胸壁心エコーシミュレーターは、心臓超音波画像診断に必要な解剖学・病理学的知識をはじめとした画像診断読影スキルやプローブハンリングによるハンド-アイコーディネーションのトレーニングを効果的にサポートします。



#### ・ 血管内シミュレーター

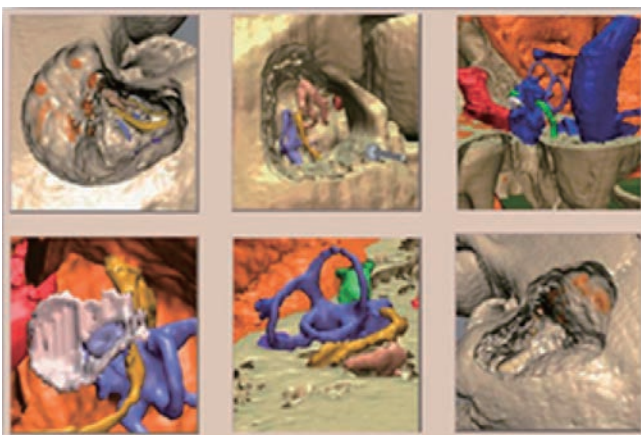
超精密血管内手術シミュレーター EVE は名古屋大学発ベンチャー企業、FAIN-Biomedical Japan

が開発したシミュレーターで、実際の CT データから脳動脈、冠状動脈、肝動脈、腎動脈を含む全身の血管を再現しています。カテーテルの基本操作に加えて、動脈瘤塞栓術、血管拡張術、ステント留置術、血栓溶解術、血管造影術など多様な術式をリアルに再現できます。



### • 感覚器シミュレーター

バーチャル ENT 手術シミュレーターは中耳を中心とした手術訓練用のシミュレーターで、高解析度のデータにより3次元の頭蓋をスクリーン上に再現し、フォース・フィードバックを採用して実際の手術に近い触覚を得ることができます。患者の CT データを取込むことができるので、患者ごとの手術前の訓練が可能です。



NU-CSC は従来のスキルラボを包摂する形で設置され、これを機に専任教員 2 名と専従職員 2 名を配置しました。技術や技能が高度になればなるほど、医療安全の観点からも実診療に備えた十分な準備が求められます。今回導入された設備や機器の充実度は国内トップクラスです。

### NU-CSCの今後の活動方針

#### • 地域医育・医療機関との連携

NU-CSC は、名古屋大学の医学科学生、保健学科学生(看護学等5専攻)、名古屋大学医学部附属病院の研修医、同じく若手医師の教育プログラムの充実を図っていきます。その一方で、この地域の大学や医療機関等と連携して、地域医療に携わるあらゆる医療職の卒後研修から生涯研修に、また、研修医教育や専門医育成に貢献することを理念として、様々な取り組みを実践していくつもりです。

#### • 多職種連携教育の拡充

シミュレーション教育は多職種連携の訓練にきわめて有効です。多職種連携の重要性が言われて久しいですが、実践的な教育プログラムの開発は緒に付いたばかりです。NU-CSC は、今後一層経験を積みながら各種プログラムの開発を進めていきます。

#### • 医療機器開発への可能性

このたび導入することになった高度なシミュレーターは、きわめて精密な人体データや臨床データに基づいて開発されてきました。このことは、これらシミュレーターにおける実践データが将来の医療機器の開発につながる可能性を示しています。実臨床での実験的データの収集は倫理的に容易ではない現在、新しい産学連携のチャンネルが開かれる期待を抱かせています。

# 「医薬統合」を包含した単一専攻化を実現

医学系研究科 分子生物学 教授 門松 健治

## 一専攻化の概要

多様化し深化する医学を理解し、世界の医療・医学研究の真のリーダーを育成するためには、選択する分野の専門教育と分野を超えた融合教育の両輪を動かすことが必要不可欠です。これまでの4専攻の教育においても、各々の専攻内では基礎医学および臨床医学の融合を意図した取り組みが行われてきました。しかし、これでは制度上、融合を加速させることは難しい状況でした。

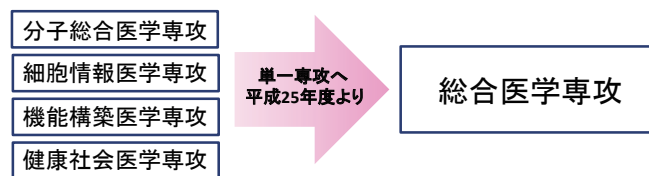
一方、医薬開発の近年の動向を振り返ってみると、がん、神経、循環器、代謝などあらゆる分野で分子レベルでの病態解析が進み、その結果、病態に根ざした「分子標的治療」が医療開発の主流としてますます勢いを増してきています。今や医学的知識と洞察力なしに医薬開発はありえません。ここに「医薬統合」の必要性

と重要性があります。名古屋大学大学院医学系研究科には、基礎医学、臨床医学に加えて、医薬開発を目指す統合医薬学的な取り組みは既に存在しており、個々の研究レベルでは優れたものも見られるようになってきています。しかし、医学系研究科としてこれらを後押しする体制は出来ておらず、組織として推進するには至っていませんでした。

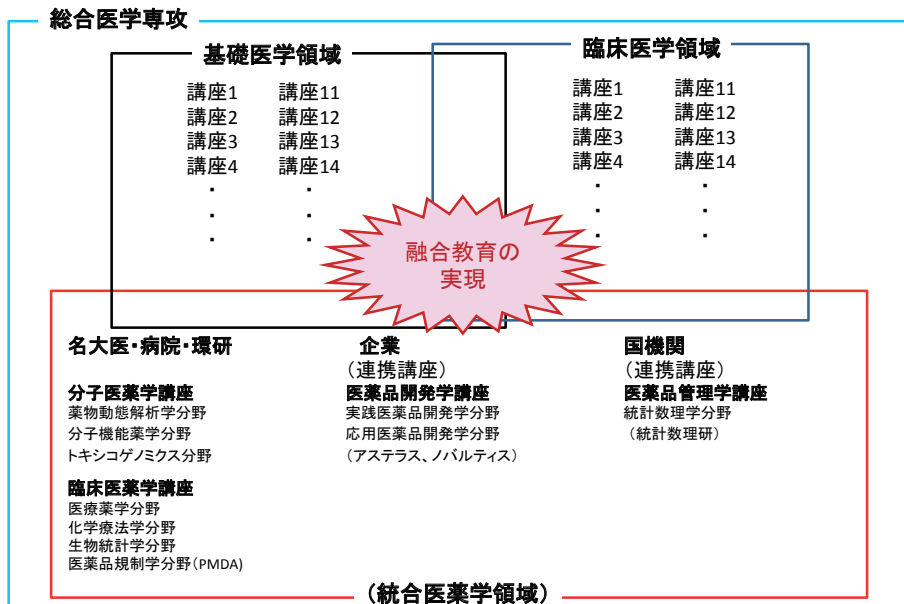
以上の背景から、基礎医学、臨床医学に統合医薬学の新たな領域を新たに加え、この3つの領域を有機的に統合する単一専攻への改組が必要と考え、これまでの4専攻を単一専攻にすることにより学生の領域を超えた流動性を促進するとともに、創出する人材を見据えた複数のカリキュラムコースを設置し、融合教育を実現することといたしました。(図1, 2)

(図1) 名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻

平成25年度から従前の4専攻を拡充・再編し、単一専攻として総合医学専攻を導入。



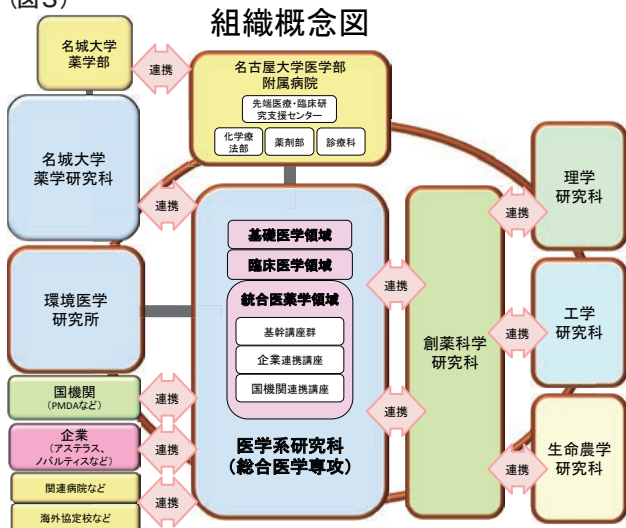
(図2) 名古屋大学医学系研究科での組み立て



## 支える組織

総合医学専攻は名古屋大学医学部附属病院、環境医学研究所、関連病院、海外協定校に加えて、国の機関、企業、名城大学と独自のネットワークを構築しています。さらに2012年度に名古屋大学に設置された創薬科学研究科と緊密な連携を取り、これを支える理学研究科、工学研究科、生命農学研究科とともに全学的なネットワークが形成されています。これらのネットワークにより創薬への取り組みを加速させ、また医学研究を推進します。(図3)

(図3)



(図4)

## 総合医学専攻の教育カリキュラム

共通(基礎)科目	専門科目	
	主科目	副科目
<b>基礎医学特論</b> (2単位) <b>基礎医科学実習(ベーシックトレーニング)</b> (2単位)	<b>専門セミナー</b> (10単位) <b>専門実験研究</b> (6単位)	<b>副専門セミナー</b> (10単位)
合計4単位	合計16単位	選択合計10単位

修了要件: 合計30単位以上

学位论文提出

博士(医学)

### <特徴>

- 共通(基礎)科目**: 大学院教育の一環としてできるだけ幅広く、かつ、基礎的な知識を身につけさせるための共通科目
- 主科目**: 学生が目指す専門分野の研究を推し進め、創造力豊かな研究者・医療指導者となるための中核的な科目
- 副科目**: 医学・医療の広い分野の発展を総合的に把握させる科目として位置づけられ、主科目に関連した科目
- 特徴あるプログラム**
  - ・**ニューロサイエンスプログラム**: ニューロサイエンスに関する講義
  - ・**がんサイエンスプログラム**: がんサイエンスに関する講義
  - ・**がんプロフェッショナル養成プログラム**: がん化学療法・がん放射線治療に関する講義
  - ・**産官学連携プログラム**: 国機関および製薬企業などとの連携に基づいた講義
  - ・**医薬統合プログラム**: 名城大学薬学研究科との連携に基づいた講義
  - ・**On the job トレーニングプログラム**: 名古屋大学医学部附属病院・先端医療臨床研究支援センターおよび病院の現場での実務研修
  - ・**トランスレーショナルリサーチプログラム**: Bench to bed sideの実情把握、戦略設計のための講義
  - ・**医学英語プログラム**: 医薬学研究に必須の英語力習得のための講義

## 教育課程編成の考え方・特色

学生は入学後、1、2年次に導入教育として基礎的な研究方法の指導や知識の修得のため共通の基礎科目を受講します。さらに、専門分野に主眼をおいた専門教育及び融合教育のための専門科目を受講します。そのために共通(基礎)科目、専門科目に加えて特徴あるプログラムを用意しています。(図4)

- 共通(基礎)科目**: 大学院教育の一環としてできるだけ幅広く、かつ、基礎的な知識を身につけさせるための共通科目。基礎医学特論及び基礎医科学実習(ベーシックトレーニング)からなる。
- 主科目**: 学生が目指す専門分野の研究を推し進め、創造力豊かな研究者・医療指導者となるための中核的な科目。専門セミナー及び専門実験研究からなる。
- 副科目**: 医学・医療の広い分野の発展を総合的に把握させる科目として位置づけられ、主科目に関連した科目。副科目の内容は、副専門セミナーである。
- 特徴あるプログラム**: 学問の体系に基づいたシリーズの講義あるいは実習により、本研究科独自の人材育成を支える。

## 「国際シンポジウム」

国際連携室長 医学系研究科 留学生専門教育担当 准教授 粕谷 英樹

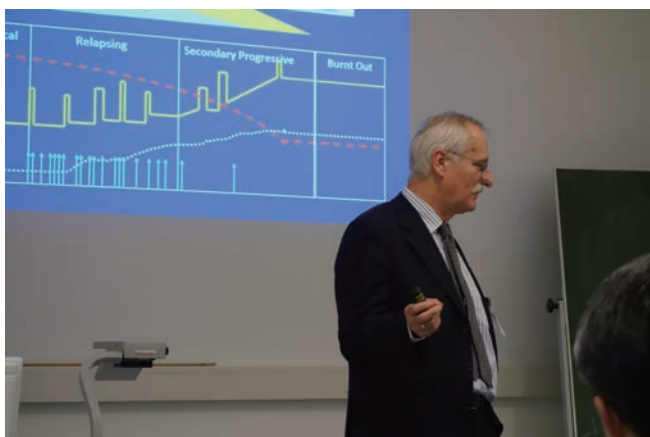
名古屋大学大学院医学系研究科は研究大学として、世界最高水準の学術研究を推進するため、優秀な人材確保や先端機器の整備にとどまらず、国際的な研究環境づくりにも取り組んでいます。この国際的研究環境づくりの施策として、世界トップレベルの医学部間提携校との国際シンポジウムを位置づけています。

この医学部間の国際シンポジウムは、共同研究シーズの発見と博士課程教育の推進を目的とし、研究者のみならず大学院生にも門戸を開放し、国境を越えた学術交流を行います。第1回国際シンポジウムは、2013年1月にウィーン医科大学の Center for Brain Research において開催しました。ウィーン医科大学と名古屋大学医学系研究科の研究内容、特に神経疾患と癌研究について理解することを目的とし、両校から総勢14名が研究発表を行い、互いの研究内容について理解を深め、共同研究を発展させていく試みを行いました。シンポジウムには、ウィーン医科大学の研究者と大学院生を中心とした約100名の聴講者に参加いただきました。シンポジウムでの発表内容はビデオ撮影して記録に残し、当日聴講できなかった方にも後日閲覧していただけるようにしました。また、シンポジウム翌日、関連研究分野の研究室を訪問し、今後の研究について議論を交わしました。



ウィーン医科大学

ウィーン医科大学は、数年前まではウィーン大学医学部としてウィーン大学に属していた大学であり、母体であるウィーン大学は、ノーベル賞受賞者9名（内バイオでは5人）を排出した歴史ある大学です。名古屋大学医学部とウィーン医科大学との交流関係は母体のウィーン大学時代にさかのぼり、1876年に名古屋大学医学部の前身である愛知県公立医学校にウィーン大学教授フォン・ローレンツ氏が着任し外科手術を教えた事より始まります。両校は2005年7月に正式に医学部間の協定を結び、さらに交流を深めてきました。今回の国際シンポジウムを開催することにより、研究レベルでの交流も開始され、学生交流から研究交流へと同校との交流関係が発展しました。



第1回国際シンポジウム発表の様子



2013年5月には、第2回国際シンポジウムであるオーストラリアのアデレード大学医学部とのシンポジウムも開催し、総勢19名の発表者が、癌と神経疾患に関する最先端の研究発表を行いました。アデレード大学は名古屋大学医学部とほぼ同じ150年の歴史を持つ大学で、現在、延べ面積6000平方メートルのSouth Australian Health and Medical Research Institute (SAHMRI)を建設中です。SAHMRIが完成すると、アデレード大学はオーストラリア国内の医学研究の中心拠点になると考えられています。名古屋大学医学系研究科は、このアデレード大学ともウィーン医科大学と同様に学生交流から交流関係を構築し、国際シンポジウム開催により研究交流に発展させることができました。



(SAHMRI)

国際シンポジウムの目的は、医学部間提携校と互いの研究の強みを理解した研究協力関係を構築することであり、それが達成されれば、名古屋大学医学系研究科は国際的に整備された研究基盤をもつ大学であると、世界にアピールできると考えます。

ドイツの協定校であるフライブルグ大学医学部からも、国際シンポジウム開催の申し込みをいただいておりますし、将来的にはこの鶴舞キャンパスでシンポジウムを開催することも考えております。こうした取り組みを、今後はWeb siteで広く発信し、国境を越えた躍動的な取り組みへの関心を啓発するとともに、学生の研究に対する高い動機を励起し、医学研究を目指す優秀な人材の輩出にも貢献できればと考えています。研究大学として躍進するために今後もこのような取り組みを進めていきます。

## SAHMRI, SOUTH AUSTRALIA

Woods Bagot's Adelaide, Melbourne and New York studios are working with the South Australian Government to establish a research institute in Adelaide.

South Australian Health and Medical Research Institute (SAHMRI) will ensure South Australia's strong position in health and medical research well into the future.



[Watch video: interview with Thomas Masullo](#)

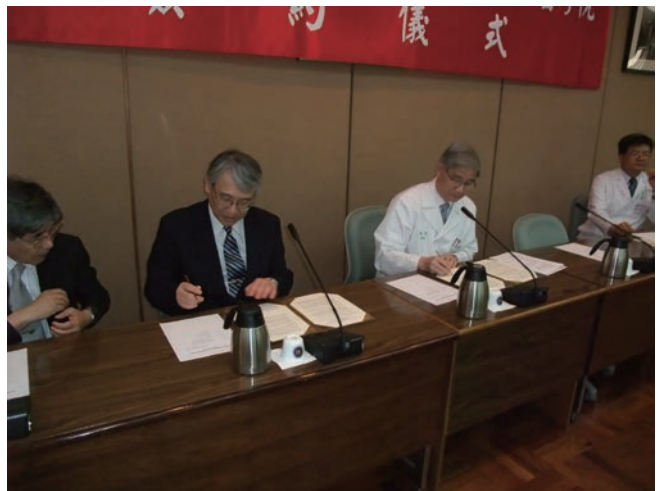
The AUD 200 million flagship research facility will house the SAHMRI headquarters and is being built alongside the New Royal Adelaide Hospital (NRAH). The SAHMRI site encompasses 5,893m<sup>2</sup> in total area.

## 「国際連携室」

国際連携室長 医学系研究科 留学生専門教育担当 准教授 粕谷 英樹

世界の情報が簡単に検索できるようになり、大学教育や研究、医療現場における国際化の要求が急速に高まってきました。大学の世界ランキングの順位も以前にも増して重要な要素となって来ており、日本の中だけでなく、世界的な評価に対応できる大学教育、医療を提供する必要性が増してきています。こうした動きはさらに今後も加速していくと予想されます。名古屋大学医学部・大学院医学系研究科ではこうした動きに対応するため、既存の国際交流室を再編し2013年5月から新たに国際連携室として新体制をスタートいたしました。国際連携室は室長の下、G30外国人教員を含む2名の教員と、関係する事務部門からなる組織であり、保健学科を含む医学部・医学系研究科と附属病院、その他関連施設の国際業務を担当します。学術交流、学生交流協定を結ぶ海外の大学は、ほとんどの場合、相手方の医学部も附属病院、研究施設等を併設しています。国際連携室は医学部・医学系研究科だけでなく、附属病院や研究施設の国際化に関しても横断的な取り組みを行うことで、全体としてバランスのとれた国際化を推進することを使命としています。

現在、協定病院としては中日友好病院、ソウル大学病院があり、アサン病院や、シリントン病院とも看護部や事務部門を中心に活発な情報交換が行われていま



国立台湾大学医学部との協定締結

す。フェイ科・薬科大学とも医学部間の協定があり、消化器内科を中心に内視鏡での技術協力が進められています。今後こうした医療情報交換やASEAN諸国への医療技術協力には、インターネットを使用した会議が盛んとなるでしょう。また、厚生労働省は以前にも増して積極的に外国人医師が日本の病院で研修し日本の医師免許を取得することを推奨しており、外国人臨床修練制度、外国人医師国家試験制度へ対応するための体制が求められてきています。保健学科は、延世大学校、上海交通大学、シンガポール国立大学と学術交流、学生交流協定を結んでおり、双方を訪れての学術交流や情報交流、学生交流が盛んに行われています。医学部・医学系研究科では欧米の一流校を中心に16校の協定校があり、2013年度は6年生の2割弱にあたる16名が、海外の医学部で3カ月間の臨床実習を受けています。この臨床実習は正規実習の一環として認められおり、3ヶ月もの長期の臨床実習を6年生の約2割に行っている医学部は類を見ず、名古屋大学の際立った特徴です。この留学プログラムには、英語で行われる事前研修も含まれており、留学プログラムを目的に名古屋大学に入学する学生も多くいます。



ソウル大学病院との協定締結

海外の大学教育に目を向けると、社会、経済のグローバル化が進み、大学教育における国際的流動性が高まる中、欧米諸国においても積極的な留学生政策（エラスムス政策等）の実施や、ヨーロッパ内での国境を越えた教育の提言が行われております。今後、アジアでも国境を越えた大学間の連携活動が活発化し、大学間の留学生交流の拡大や、教育・研究両面での連携が予想され、こうした国際的な学際ネットワークの形成に積極的に参画することは、大学自体の国際的競争力を強化するのみならず、日本の大学が教育・研究を通して社会へ貢献していくという意味でも重要です。

名古屋大学では、濱口道成総長のリーダーシップの下、「名古屋大学から NAGOYA UNIVERSITY へ」をキャッチフレーズとする「濱口プラン」を策定し、全学を挙げて大学の国際化に取り組んでいます。現在、大学全体では 97ヶ国から 1,611 名の留学生と 925 名の外国人研究者、合わせて 2,536 名の外国人が在籍しており、学部生と大学院生の学生数が 16,523 名である中、留学生の占める割合は高率となっています。医学部・医学系研究科でも、大学院生 78 名、YLP12 名、



協定校（デューク大学）

研究生 8 名、学部生（保健学科）2 名、NUPACE 等短期留学生年間 12 名を入れて合計 112 名が在籍しています。活力ある日本経済のためにグローバル社会に対応できる国際人の育成が大学に求められ、留学生や留学経験者の割合をさらに増加させることが望まれてきています。今後、日本の少子化が進む中、経済的な発展を維持するため大学に求められる国際化の役割は、国家的な施策としてさらに重要性を増してくるでしょう。AC21 コンソーシアム、留学生 30 万人計画、中国 5000

人計画、グローバル 30 拠点等、大学を囲む早急な対応を求められるプログラムが列挙する中で医学部・医学系研究科は、新しい対アジア経済路線を展開しつつ今までの欧米路線をさらに押し進め、海外の一流校との研究・技術開発分野での協力関係を展開する事が要求されています。国際連携室はこのような社会の急速な国際化の要求に対して迅速な対応を行い、医学部・医学系研究科の国際化を推進していきます。



留学プログラムの様子

## 「延世大学校との学術研究交流」

保健学科統括専攻長・保健学科長 榊原 久孝

名古屋大学大学院医学系研究科（保健学）では、2010年より、韓国でも有数の伝統を誇る名門私立大学である延世大学校の保健学・看護学部門と大学院レベルでの学術研究交流を開始しました。延世大学校は、ソウル市にベット数2000床超の近代的なセブランス病院を有していることでも有名です。延世大学校原州キャンパスにある保健科学大学（保健学部）の放射線学科、臨床検査学科、理学療法学科、作業療法学科、および原州医科大学校（医学部）看護学科との間で、学術交流を開始したものです。名古屋大学と延世大学校とは、2008年に大学間の協定が締結されています。

### 3年間の交流実績

本交流は、名古屋大学からの提案で開始され、第1回名古屋—延世大学間学術研究交流会を、2010年11月に名古屋大学主催で大幸キャンパスにて開催しました。延世大学校の副学長を含め教員・大学院生19名の方が参加され、名古屋大学の教員・大学院生など総勢200名ほどの参加で開催されました。午前中は、全体会として挨拶や基調報告、午後は各専攻別に5つの分科会（看護・放射・検査・理学・作業）として、教員・

大学院生の研究発表を中心に、研究交流がなされました。その後には、専攻ごとに懇親交流会なども設けて、交流を深めました。2011年には、第2回交流会が延世大学校で開催され、名古屋大学より教員・大学院生41名が参加して、活発な交流をしてきました。また、2011年からは、このような交流会に加えて、大学院生による相互の研究室訪問を開始しており、延世大学校の各専攻より各1名、計5名の大学院生を名古屋大学に受け入れて、研究室の研究紹介などの交流を行いました。2012年度には、第3回交流会を名古屋大学で開催し、延世大学校から教員5名、大学院生27名の計32名を迎え、全体で53演題の大学院生による研究発表が行われるとともに、名古屋大学の大学院生10名を延世大学校へ研究室訪問として派遣しました。交流も3年を迎え、相互交流が深まっています。

### 本プログラムの目的と特徴

本プログラムの目的は、学術研究交流会を開催することで、研究発表を通じた国際交流の促進を図るとともに、大学院生の国際的視野を広めることで研究意欲の向上を促し、また大学院生が相互の大学の研究室訪



2012年第3回名古屋—延世大学間学術研究交流会での集合写真（名古屋大学で開催）

間を行うことで、人材交流や共同研究、あるいは研究留学などへの発展を図り、国際的学術研究交流のより一層の促進を図ることです。

本プログラムは、両大学大学院の保健学・看護学関連の専攻全体での取り組みです。研究発表する機会を共同開催することで、大学院生が英語での口頭発表と質疑応答をする国際学会に類似した経験を積む機会となり、国際交流への意欲向上に繋がっています。また研究発表会終了後には専攻別の交流懇談会も開催して、両大学間の緊密な人材交流の促進が図られてきています。大学院生のみならず教員も参加しているため、専攻全体として国際交流の促進が図られています。

### 学部生の看護臨床研修の国際交流

この延世大学校との学術研究交流を契機として、看護学専攻において、学部生の交流についても協議がなされ、2011年より看護臨床研修の相互受け入れという形で、学部生の交流も始まりました。同年には、4名の学部生を延世大学校へ派遣し、延世大学校からは4名を名古屋大学医学部附属病院等での研修に受け入れました。看護学専攻では、さらに上海交通大学医学部看

護学科とも交流覚書を結び、2名を本学に受け入れられました。また国立フィリピン大学マニラ校からも2名を研修に受け入れ、名古屋大学からは4名を派遣しました。この国際交流には、学生も積極的で、学生独自に海外学生の受け入れ組織を立ちあげて、大学生生活の紹介スライドの作成発表や、ウエルカムパーティなどの企画・運営などに積極的に関わって、国際交流の広がりがみられます。2012年にはシンガポール国立大学医学部看護学科とも新たに交流協定を締結し、2013年度より交流が開始されることになりました。

### 終わりに

これまでの経験で、海外派遣される学生のみでなく海外へ行かない学生も、受け入れた海外学生との交流を通して、海外学生の積極的な姿勢や英語によるコミュニケーション等、国際的刺激を受けているように感じられます。今後ますます国際交流が教育・研究の両分野で広がっていくようプログラム展開を考えています。なお本プログラムは、2011年度より、文部科学省留学生交流支援制度の支援を受けて実施しています。



交流会の開催風景



名古屋大学医学部附属病院の見学風景

## 「神経疾患・腫瘍分子医学研究センターの設置延長と組織改編」

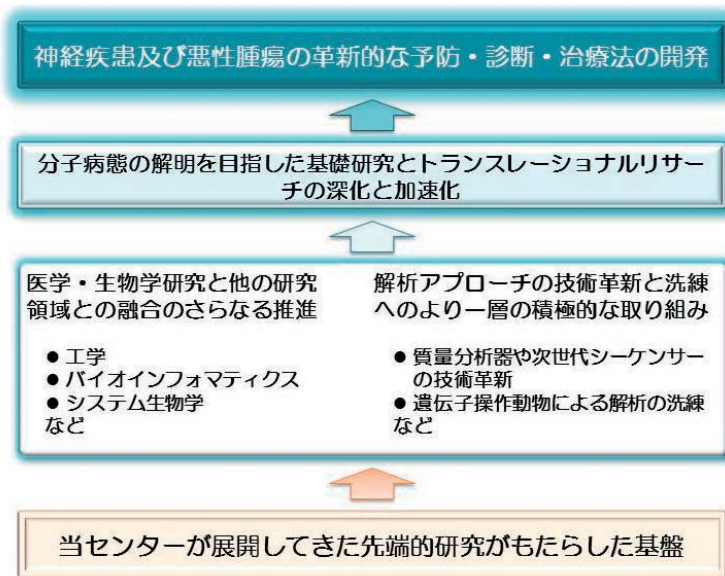
神経疾患・腫瘍分子医学研究センター長 医学系研究科 分子腫瘍学 教授 高橋 隆

名古屋大学大学院医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センターは、多くの場合に有効な治療法が無い神経変性疾患などの神経系の疾患と、我が国を始めとする先進諸国における死亡原因の第1位である悪性腫瘍という2つの医学研究領域に焦点を絞って、最先端医療の研究開発の基盤となる研究を推進する国際的研究拠点の形成を目指して、2003年に設立されました。本研究センターの前身の一つは、1983年に設立された附属病態制御研究施設であり、そこでは学際的・横断的な研究体制のもとに難治性感染症と悪性腫瘍の発症機構の解明と、その予防と制御をめざした研究が進められていました。一方、医学系研究科においては当時、1998年度に文部科学省の中核的研究拠点(COE)形成プログラム「神経変性疾患と悪性腫瘍の分子医学」が発足し、神経変性疾患と悪性腫瘍の病態解明を目指した研究が強力に推進されて、内外からの高い評価を得ていました。本研究センターは、このような疾患の病態解明に関する研究において優れた実績を有する病態

制御研究施設と、先端的な研究を展開するCOEプログラムを形成する研究グループの両者を、発展的に統合することで発足したものです。

本研究センターは、これまで神経疾患と悪性腫瘍の病態解明を目指した基礎研究から、革新的な診断・治療法の開発を志向したトランスレーショナルリサーチに至るまで、最先端の分子医学研究を展開してきました。そして、2003年に設置されて以降、従来型の専門領域に基づく縦割り型の医学研究に囚われずに、より広い視点で医学・生物学の進展を横断的に取り込んだ融合的な研究を展開し、その成果を極めて高い研究業績として結実させてきました。2008年から2012年までの直近の5年間に、Nature Genet, Cancer Cell, Nature Cell Biol, J Clin Oncol, J Clin Invest, Dev Cell, Neuron, Genes&Dev, Proc Nat Acad Sci USA, EMBO J, J Cell Biolなどの欧文誌に発表した原著論文は350報余りに上ります。また、単年度の研究費が1千万円を超える大型の研究費についても、脳科学研

図1 神経疾患・腫瘍分子医学研究センターにおける研究

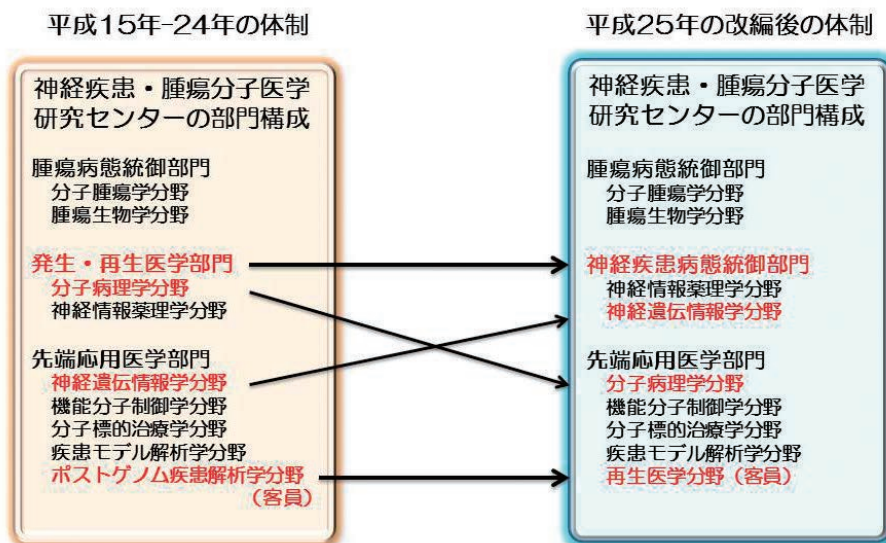


究戦略推進プログラム、次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム、戦略的創造研究推進事業(CREST)、新学術領域研究、基盤研究S及びA、ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム(HFSP)、難治性疾患克服研究事業、第3次対がん総合戦略研究事業など、毎年約2～5億円を獲得してきました。さらに、本研究センターは、医学系研究科がCOEプログラムに引き続き、21世紀COEプログラム「神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」(2003～2007年度)及び、グローバルCOEプログラム「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」(2008～2012年度)を推進するにあたって中核的な役割を担うとともに、大学院教育においても着実に貢献を重ねて、2008年から2012年までの5年間に修士課程46名、博士課程92名(臨床教室から学位取得のために派遣された博士課程の大学院生46名を含む)の指導を行ってきました。

このように赫々たる成果を上げてきた本研究センターは、このほど当初予定された設置期間が満了する

にあたって、これまでの高い教育・研究業績が評価され、設置期間が2018年まで延長されることとなりました。なお、設置期間の延長にあたっては、神経疾患と悪性腫瘍を主たる研究対象とする部門を、それぞれ神経疾患病態統御部門(2分野)と腫瘍病態統御部門(2分野)に集約し、それに加えて両者にまたがる先端応用研究を展開する先端応用医学部門(4分野+1客員分野)の計3部門・9分野とし、神経疾患と悪性腫瘍に特化した、基礎研究から臨床応用研究までを包含する研究センターとしての特質と、各研究部門の特性を、内外に対して明示的に示せるように組織改編を行っています。今後、本研究センターでは、名古屋大学が神経疾患と悪性腫瘍に関わる医学研究において高い競争力を発揮し世界をリードしていく研究拠点として、これまでも増して先鋭的な研究を積極的に展開して国際的な地位をさらに確立するとともに、次世代の医学研究者の育成にも一層注力して行きたいと考えています。

図2 神経疾患・腫瘍分子医学研究センターの改編前後の部門構成



## 「脳とこころの研究センター」

「脳とこころの研究センター」企画運営委員会委員長 医学系研究科 脳神経外科学 教授 若林 俊彦

脳(認知症、パーキンソン病、脳卒中、てんかん、脳腫瘍など)とこころ(うつ病、統合失調症、発達障害など)の疾患は、いずれも発症頻度が高く、本質的な予防法が無く、結果として自殺、長期の就学・就労困難など、大きな社会的損失をもたらしています。また健常者における脳とこころの研究推進は、脳とこころの成長や老化の機序を明らかにし、生活の質を高め、疾患を予防していく上でも極めて重要な課題です。しかし、脳という、ヒトにおいて最も高度に進化した複雑な臓器が持つ機能のメカニズムの解明は容易ではなく、したがって、これらの脳とこころの働きを解明し、疾患を克服することは、21世紀の最重要であると同時に極めて困難な課題でもあります。近年の画像診断法の発達は、脳とこころの働きや病態の可視化をもたらしており、本領域におけるメカニズムの解明と疾患の克服に向けて、大きな進歩をもたらすことが期待されています。

脳とこころを対象とする学問分野は医学分野に止まらず、教育、環境、創薬、工学分野など広範囲に及びますが、それらが大規模コホートを形成し、多領域の研究者がコンソーシアムを組み合わせながら、学際的、融合的に研究展開していく中核的な研究センターはこれま

で国内に存在しませんでした。そこで、コンピューター断層撮影装置(CT)、磁気共鳴画像装置(MRI)、脳磁計(MEG)、近赤外線分光装置(NIRS)、ポジトロン断層撮影装置(PET)、単一光子放射断層撮影装置(SPECT)など最新の画像装置や脳機能を分子レベルで解析する分子イメージング、さらに、各種オミックス解析装置を駆使して、脳とこころの疾患研究や、教育学習、機械操作に関する脳科学研究を全学的に推進する脳とこころの研究センターを、2010年10月1日付けで名古屋大学大学院医学系研究科に設置しました。

本研究センターにおいては、1) 脳とこころの疾患の病態解明と革新的次世代創薬開発、2) 脳とこころの発達・加齢の機序解明と、それに基づく新発想の創薬開発、3) 最先端脳医療・脳科学に基づくQOL向上方策の開発、の3つの研究コアを構成し、各々のコアが発達・疾患・加齢の3つのコホートから得られる情報・バイオリソースに、倫理的配慮をもってアクセスすることで脳とこころの疾患の統合的解明を推進するとともに、この基盤の下に、その病態解明を促進し、次世代創薬への展開を図るべく、以下の戦略的事業を推進しています。



医学系研究科、環境学研究科、教育発達科学研究科、エコトピア科学研究所、環境医学研究所、創薬科学研究科

### 1) 脳とこころの疾患の病態解明と革新的次世代創薬開発コア

認知症、パーキンソン病、脳卒中、てんかん、脳腫瘍、うつ病、統合失調症、発達障害といった脳とこころの疾患を対象に、脳画像、分子イメージング、オミックス(ゲノム、血液、髄液、組織)、死後脳の各種データと臨床情報を大規模かつ前向きに集積し、500～1000人規模の疾患コホー



トを構築します。これらを基に、脳とこころの疾患の脳内機能ネットワークや病態の解明を行います。また、医学系研究科、連携研究所・企業、創薬科学研究所などにおいて、動物実験など前臨床研究から得られるシーズ(治療候補分子)について、コンソーシアム研究、コホート研究を最大限に活用することで、次世代創薬開発に向けた流れを推進します。

## 2) 脳とこころの発達・加齢の機序解明と、それに基づく新発想の創薬開発研究コア

幼児期から老年期に至る各世代にわたる健常者の、脳構造と機能に関するデータを、医学系研究科、環境学研究科、教育発達科学研究所、エコトピア科学研究所をはじめ、複数の部門が連携し、認知機能、気分、社会性、生活環境、身体機能などの情報とともに大規模かつ前向きに集積します。脳の発達過程、老化過程と脳とこころの疾患との連続性や差異を「脳とこころの疾患の病態解明と革新的次世代創薬開発研究コア」との緊密な協力体制の下で検討します。これにより、発

達障害や加齢に伴う脳疾患の機序解明につなげ、発達促進、老化予防・治療に関連する新発想の創薬あるいは介入治療へと展開します。

## 3) 最先端脳医療・脳科学に基づくQOL向上方策の開発研究コア

サブミリ単位の高精度を誇るナビゲーションシステム“ニューロメイト”を駆使することで、術中MRI情報を元に超高画質イメージによる次世代マイクロサージェリーを確立し、このシステムを操作するためのアジア初のトレーニングセンターを設置します。これにより、コホート参加者が脳疾患で失った神経機能を再生し、社会復帰を促進します。また、脳とこころの疾患による認知機能の低下や眠気に伴う自動車運転能力の変化を脳画像によって可視化し適正に評価する技術を開発し、QOL向上を図ります。

本研究センターは、自ら研究推進するとともに、各部門が参画する個別研究が円滑に推進されるためのサ

ポート業務を行い、部門間の連携研究を促進し、コホート研究・コンソーシアム研究におけるデータ・画像規格の決定・管理、各研究コア間で情報共有できる体制の構築・運営を行っていきます。また、本領域の次世代を担う若手研究者を育成するための教育を、学生や大学院生をはじめとした若手研究者を対象に進めていきます。



「脳とこころの研究センター」ホームページ ▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/noutokokoro/>

1871(明治 4) 年	名古屋藩評定所跡(現中区丸の内三丁目1)に公立の仮病院(1872年閉院)及び元町役所に仮医学校(1872年廃校)設置
1872(明治 5) 年	廃藩により有志きよ金で義病院として経営(1873年閉院)
1873(明治 6) 年	県民きよ金で仮病院(西本願寺別院、現中区門前町1)として経営
1873(明治 6) 年	医学講習場(西本願寺別院)設置
1875(明治 8) 年	愛知県病院と改称
1876(明治 9) 年	公立医学講習場及び公立病院と改称
1876(明治 9) 年	公立医学所と改称
1877(明治 10) 年	天王崎町(現中区栄1丁目17~18番地)に移転(7月1日病院開院式)
1878(明治 11) 年	公立医学校と改称
1881(明治 14) 年	愛知医学校及び愛知病院と改称
1901(明治 34) 年	愛知県立医学校と改称
1903(明治 36) 年	愛知県立医学専門学校として新発足
1914(大正 3) 年	中区(現昭和区)鶴舞町に新築、移転
1920(大正 9) 年	愛知医科大学に昇格
1922(大正 11) 年	愛知医科大学病院と改称
1924(大正 13) 年	愛知医科大学附属医院と改称
1931(昭和 6) 年	官立移管 名古屋医科大学・名古屋医科大学附属医院となる
1939(昭和 14) 年	名古屋帝国大学医学部の発足・名古屋帝国大学医学部附属医院と改称
1939(昭和 14) 年	名古屋帝国大学臨時附属医学専門部の設置(1949年廃止)
1943(昭和 18) 年	名古屋帝国大学航空医学研究所の設置(1946年廃止)
1944(昭和 19) 年	名古屋帝国大学附属医学専門部と改称
1944(昭和 19) 年	名古屋帝国大学医学部附属病院分院の設置(1996年本院へ統合一元化)
1946(昭和 21) 年	名古屋帝国大学環境医学研究所を設置
1947(昭和 22) 年	名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属医院となる
1947(昭和 22) 年	名古屋大学附属医学専門部と改称(1950年廃止)
1949(昭和 24) 年	新制名古屋大学が発足 名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属病院となる
1951(昭和 26) 年	医学部附属看護学校設置(1980年廃校)
1955(昭和 30) 年	医学部附属診療エックス線技師学校設置

1959(昭和 34)年	医学部附属助産婦学校設置(1981年廃校)
1959(昭和 34)年	医学部附属無菌動物研究施設設置(1983年改組)
1961(昭和 36)年	医学部附属衛生検査技師学校設置
1962(昭和 37)年	医学部附属癌研究施設設置(1983年改組)
1965(昭和 40)年	医学部附属医真菌研究施設設置(1983年改組)
1966(昭和 41)年	医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科設置
1969(昭和 44)年	医学部附属診療放射線技師学校と改称(1982年廃校)
1972(昭和 47)年	医学部附属臨床検査技師学校と改称(1981年廃校)
1977(昭和 52)年	名古屋大学医療技術短期大学部設置(2001年廃止)
1983(昭和 58)年	医学部附属病態制御研究施設設置(2003年改組)
1986(昭和 61)年	医学部附属動物実験施設設置(2004年改組)
1996(平成 8)年	名古屋大学医学部附属病院分院を統合
1996(平成 8)年	診療所「名古屋大学大幸医療センター」設置(2011年廃院)
1997(平成 9)年	医学部保健学科設置
2000(平成 12)年	医学部の大学院重点化完成
2001(平成 13)年	大学院医学研究科修士課程医科学専攻設置
2001(平成 13)年	医学部附属病態制御研究所と医学部附属動物実験施設の所属を大学院医学研究科に変更
2002(平成 14)年	医学研究科を医学系研究科に改称し、医学系研究科に修士課程看護学専攻、 修士課程医療技術学専攻及び修士課程リハビリテーション療法学専攻設置
2003(平成 15)年	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター設置
2003(平成 15)年	医学系研究科に修士課程医科学専攻医療行政コース設置
2004(平成 16)年	医学系研究科修士課程看護学専攻、修士課程医療技術学専攻及び 修士課程リハビリテーション療法学は博士課程(前期課程・後期課程)となる
2004(平成 16)年	附属医学教育研究支援センター設置
2005(平成 17)年	医学部附属総合医学教育センター設置
2010(平成 22)年	医学部附属病院に先端医療・臨床研究支援センター設置
2011(平成 23)年	脳とこころの研究センター設置
2012(平成 24)年	医学部保健学科の大学院講座化
2013(平成 25)年	附属クリニカルシミュレーションセンター(NU-CSC)設置

# 歴代医学部長

田村 春吉	TAMURA, Harukichi	1939(昭和14)年 4月 1日 ~ 1946(昭和21)年 1月31日
田村 春吉	TAMURA, Harukichi	1946(昭和21)年 1月31日 ~ 1946(昭和21)年 2月 9日 ※
戸蒔 近太郎	TOGARI, Chikataro	1946(昭和21)年 2月 9日 ~ 1952(昭和27)年 2月 9日
久野 寧	KUNO, Yasu	1952(昭和27)年 2月 9日 ~ 1954(昭和29)年 3月31日
戸蒔 近太郎	TOGARI, Chikataro	1954(昭和29)年 4月 1日 ~ 1958(昭和33)年 3月31日
山田 和麻呂	YAMADA, Kazumaro	1958(昭和33)年 4月 1日 ~ 1960(昭和35)年 3月31日
村松 常雄	MURAMATSU, Tsuneo	1960(昭和35)年 4月 1日 ~ 1962(昭和37)年 3月31日
神田 善吾	KANDA, Zengo	1962(昭和37)年 4月 1日 ~ 1964(昭和39)年 3月31日
橋本 義雄	HASHIMOTO, Yoshio	1964(昭和39)年 4月 1日 ~ 1966(昭和41)年 3月31日
小笠原 一夫	OGASAWARA, Kazuo	1966(昭和41)年 4月 1日 ~ 1967(昭和42)年 10月20日
小嶋 克	KOJIMA, Koku	1967(昭和42)年 10月20日 ~ 1969(昭和44)年 3月31日 ※
高木 健太郎	TAKAGI, Kentaro	1969(昭和44)年 4月 1日 ~ 1972(昭和47)年 4月 1日 ※
石塚 直隆	ISHIZUKA, Naotaka	1972(昭和47)年 4月 1日 ~ 1974(昭和49)年 3月31日
田内 久	TAUCHI, Hisashi	1974(昭和49)年 4月 1日 ~ 1976(昭和51)年 3月31日
加藤 延夫	KATO, Nobuo	1976(昭和51)年 4月 1日 ~ 1978(昭和53)年 3月31日
祖父江 逸郎	SOBUE, Itsuro	1978(昭和53)年 4月 1日 ~ 1980(昭和55)年 3月31日
飯島 宗一	IIJIMA, Soichi	1980(昭和55)年 4月 1日 ~ 1981(昭和56)年 7月21日
加藤 延夫	KATO, Nobuo	1981(昭和56)年 7月22日 ~ 1985(昭和60)年 7月21日
佐久間 貞行	SAKUMA, Sadayuki	1985(昭和60)年 7月22日 ~ 1987(昭和62)年 7月21日
青木 國雄	AOKI, Kunio	1987(昭和62)年 7月22日 ~ 1989(平成元)年 7月21日
永津 俊治	NAGATSU, Toshiharu	1989(平成元)年 7月22日 ~ 1991(平成 3)年 7月21日
齋藤 英彦	SAITO, Hidehiko	1991(平成 3)年 7月22日 ~ 1995(平成 7)年 7月21日
粟屋 忍	AWAYA, Shinobu	1995(平成 7)年 7月22日 ~ 1997(平成 9)年 3月31日
中島 泉	NAKASHIMA, Izumi	1997(平成 9)年 4月 1日 ~ 1999(平成11)年 3月31日
勝又 義直	KATSUMATA, Yoshinao	1999(平成11)年 4月 1日 ~ 2003(平成15)年 3月31日
杉浦 康夫	SUGIURA, Yasuo	2003(平成15)年 4月 1日 ~ 2005(平成17)年 3月31日
濱口 道成	HAMAGUCHI, Michinari	2005(平成17)年 4月 1日 ~ 2009(平成21)年 3月31日
祖父江 元	SOBUE, Gen	2009(平成21)年 4月 1日 ~ 2012(平成24)年 3月31日
高橋 雅英	TAKAHASHI, Masahide	2012(平成24)年 4月 1日 ~

※事務取扱

# 教育・研究組織

名古屋大学医学部・大学院医学系研究科は、昭和区鶴舞と東区大幸に2つのキャンパスを有し、中京地区の医学研究および医療の中核拠点として発展を遂げてきた。

附属病院を含む広範な組織では、「教育」「研究」「治療」を柱に健康の増進に寄与し人類の幸福に真に貢献するという共通の目標を掲げ、個々の専門性に特化した先端領域を追求している。

次頁からは「教育」「研究」を担う組織の概要を紹介する。

機構図 28

役職員 29

鶴舞キャンパス 30

大学院医学系研究科 博士課程

総合医学専攻 基礎医学領域 32

臨床医学領域 34

統合医薬学領域 35

研究者養成コース（MD・PhD コース、卒直後コース） 36

連携講座 37

寄附講座 38

修士課程 医科学専攻 42

医科学専攻 医療行政コース 43

医学部 医学科 44

附属施設 名古屋大学附属図書館医学部分館 45

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 45

附属医学教育研究支援センター 46

附属総合医学教育センター 46

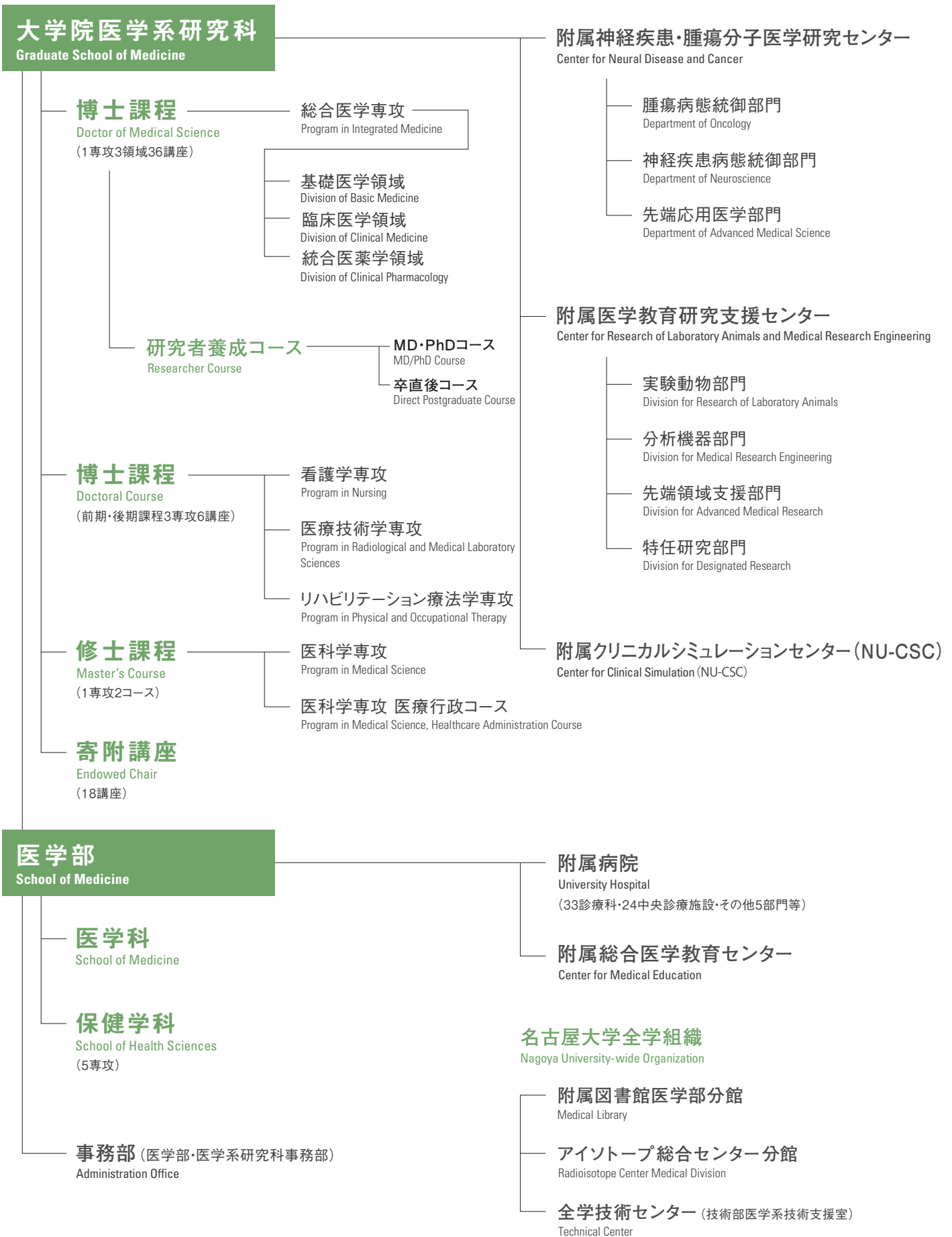
附属クリニカルシミュレーションセンター(NU-CSC) 46

大幸キャンパス 47

大学院医学系研究科 博士課程 48

医学部 保健学科 50

# 機構図



# 役職員

## 大学院医学系研究科

医学系研究科長	Dean of Graduate School of Medicine	高橋 雅英 教授 ※	TAKAHASHI, Masahide
副研究科長(学務担当)	Vice-Dean for Medical Education	藤本 豊士 教授 ※	FUJIMOTO, Toyoshi
副研究科長(大学院・倫理担当)	Vice-Dean for Graduate School Affairs and Ethics	大野 欽司 教授	OHNO, Kinji
副研究科長(評価担当)	Vice-Dean for Evaluation	若林 俊彦 教授	WAKABAYASHI, Toshihiko
副研究科長(施設・創薬担当)	Vice-Dean for Facilities and Drug discovery	門松 健治 教授	KADOMATSU, Kenji
副研究科長(研究・財務担当)	Vice-Dean for Research and Financial Affairs	長谷川 好規 教授	HASEGAWA, Yoshinori
副研究科長(人事労務担当)	Vice-Dean for Personnel Affairs and Labor	吉川 史隆 教授	KIKKAWA, Fumitaka

## 医学部

医学部長	Dean of School of Medicine	高橋 雅英 教授 ※	TAKAHASHI, Masahide
医学科長	Head of School of Medicine	高橋 雅英 教授 ※	TAKAHASHI, Masahide
病院長	Director of University Hospital	石黒 直樹 教授 ※	ISHIGURO, Naoki
保健学科長	Head of School of Health Sciences	榊原 久孝 教授	SAKAKIBARA, Hisataka

## その他の施設

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター長	Director of Center for Neural Disease and Cancer	高橋 隆 教授	TAKAHASHI, Takashi
附属医学教育研究支援センター長	Director of Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering	門松 健治 教授	KADOMATSU, Kenji
名古屋大学附属図書館医学部分館長	Director of Nagoya University Medical Library	濱嶋 信之 教授	HAMAJIMA, Nobuyuki
アイソトープ総合センター分館長	Director of Radioisotope Center Medical Division	磯部 健一 教授	ISOBE, Kenichi

## 事務部

事務部長	Administrative Director	塩崎 英司	SHIOZAKI, Eiji
次長	Vice Administrative Director	高下 一磨	TAKASHITA, Kazuma
総務課長	Director, General Affairs Division	曾谷 祐一	SOTANI, Yuuichi
人事労務主幹	Supervisor of Personnel Affairs and Labor	坪井 直志	TSUBOI, Tadashi
学務課長	Director, Student Affairs Division	大脇 申子男	OWAKI, Kineo
経営企画課長	Director, Management Planning Division	安田 浩明	YASUDA, Hiroaki
経理課長	Director, Accounting Division	堂前 弘樹	DOUMAE, Hiroki
施設管理主幹	Supervisor of Facilities Management	佐野 立明	SANO, Tatsuki
医事課長	Director, Medical Affairs Division	仲井 精一	NAKAI, Seiichi
医療業務支援課長	Director, Medical Services Support Division	武内 松二	TAKEUCHI, Shouji
大幸地区事務統括課長	Director, General Administration Division, Daiko Campus	山下 啓二	YAMASHITA, Keiji

※は名古屋大学教育研究評議会評議員を示す。

(2013年4月1日現在)

## 鶴舞キャンパス

# 大学院医学系研究科 博士課程・修士課程

## 医学部 医学科

名古屋市昭和区の鶴舞公園に隣接する名古屋大学鶴舞キャンパスには、大学院医学系研究科の博士課程と修士課程、医学部医学科、そして附属施設が集結している。

市民に「名大病院」として親しまれる附属病院と緊密な連携を図りながら、質の高い教育と研究が行われている。

### 大学院医学系研究科 博士課程・修士課程

1955(昭和30)年に設置された名古屋大学大学院医学系研究科は、一貫して医学における学術の理論と応用を教育・研究し、学術の研究者と高度の専門技術者を養成してきた。先端・多様化した現代医学に対応した、包括的で開放的な研究環境を実現するため、2000(平成12)年までの3年をかけて4専攻への改組を行い、さらに、研究の一層の先端化を図る研究センター、教育・研究支援センター、修士課程などを充実させてきた。2013(平成25)年には、統合医薬学関連講座の創設に伴い、領域融合型教育研究を目的として、4専攻を1専攻に統合し、基礎医学領域・臨床医学領域・統合医薬学領域の3領域を設置し、現在の形に至る。

各専攻では、研究とともに該当分野における大学院教育と学部教育を兼務担当する。

### 医学部 医学科

「医の倫理を尊重し、人類の幸福に真に貢献することを誇りとする医学研究者および医療人を育成する」などの基本方針のもとに、国際化を見据えたカリキュラムを含む6年間一貫教育を行っている。また、医学の各分野にわたり広く総合的に研究を展開する。



## 鶴舞キャンパス

### 大学院医学系研究科 博士課程

総合医学専攻	基礎医学領域	32
	臨床医学領域	34
	統合医薬学領域	35
研究者養成コース (MD・PhD コース、卒直後コース)		36
連携講座		37
寄附講座		38
修士課程	医科学専攻	42
	医科学専攻 医療行政コース	43

医学部	医学科	44
-----	-----	----

附属施設	名古屋大学附属図書館医学部分館	45
	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター	45
	附属医学教育研究支援センター	46
	附属総合医学教育センター	46
	附属クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC)	46

## 総合医学専攻

入学定員  
161名

異なる研究分野が流動的に協力し合い、学生への教育・研究指導を進める体制を構築するため、基礎医学・臨床医学・統合医薬学を有機的に統合する単一専攻制である。

### ● 基礎医学領域

大講座名 Field	専門分野 Department	担当教授 Professor
生物化学 Biological Chemistry	分子生物学 Molecular Biology	門松 健治 教授 KADOMATSU, Kenji
	生体高分子学 Biomacromolecules	
	分子細胞化学 Molecular and Cellular Biology	(古川 鋼一 教授 FURUKAWA, Koichi)
微生物・免疫学 Microbiology and Immunology	分子病原細菌学 Molecular Bacteriology	荒川 宜親 教授 ARAKAWA, Yoshichika
	耐性菌制御学 Bacterial Drug Resistance	
	分子細胞免疫学 Immunology	磯部 健一 教授 ISOBE, Kenichi
	免疫細胞動態学 Cellular Immunology	
	ウイルス学 Molecular Virology	木村 宏 教授 KIMURA, Hiroshi
先端応用医学 (協力) Advanced Medical Science	機能分子制御学 Molecular Biochemistry	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 先端応用医学部門
	分子標的治療学 Molecular Mycology and Medicine	
	神経遺伝情報学 Neurogenetics	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 神経疾患病態統御部門
	疾患モデル解析学 Disease Models	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 先端応用医学部門
	生物情報解析工学 Bioinformatics Analysis	工学研究科
	分子診断ナノ工学 Nanoengineered Molecular Diagnosis	
実験動物科学 (協力) Laboratory Animal Science	実験動物科学 Laboratory Animal Science	附属医学教育研究支援センター 実験動物部門
老化基礎科学 (連携) Aging Research	老化基礎科学 Aging Research	国立長寿医療研究センター 研究所
		丸山 光生 客員教授 MARUYAMA, Mitsuo 柳澤 勝彦 客員教授 YANAGISAWA, Katsuhiko
免疫不全統御学 (連携) AIDS Research	免疫不全統御学 AIDS Research	国立病院機構 名古屋医療センター
細胞科学 Cell Science	細胞生物物理学 Cell Physiology and Biophysics	
	イメージング生理学 Bio-Imaging	
	細胞生理学 Cell Physiology	久場 博司 教授 KUBA, Hiroshi
	分子動態学 Cell Pharmacology	
	分子薬理学 Molecular Pharmacology	(貝淵 弘三 教授 KAIBUCHI, Kozo)
神経科学 (協力) Neuroscience	神経情報薬理学 Neuroscience	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 神経疾患病態統御部門
腫瘍病態学 (協力) Oncology	分子腫瘍学 Molecular Carcinogenesis	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
	腫瘍生物学 Cancer Biology	腫瘍病態統御部門
高次神経統御学 (協力) Higher Nervous Control	視覚神経科学 Visual Neuroscience	環境医学研究所
	神経免疫学 Neuroimmunology	
		小松 由紀夫 教授 KOMATSU, Yukio 錫村 明生 教授 SUZUMURA, Akio

大講座名 Field	専門分野 Department	担当教授 Professor
器官系機能調節学(協力) Regulation of Organ Function	神経性調節学 Neural Regulation 環境医学研究所	山中 章弘 教授 YAMANAKA, Akihiro
	心・血管学 Cardiovascular Research	神谷 香一郎 教授 KAMIYA, Kaichiro
分子・細胞適応学(協力) Molecular and Cellular Adaptation	発生・遺伝学 Genetics 環境医学研究所	村田 善晴 教授 MURATA, Yoshiharu
	病態神経科学 Neuroscience and Pathobiology	山中 宏二 教授 YAMANAKA, Koji
神経生化学 (連携) Neurochemistry	神経生化学 Neurochemistry 愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所	中山 敦雄 客員教授 NAKAYAMA, Atsuo
		永田 浩一 客員教授 NAGATA, Koichi
機能形態学 Anatomy and Cell Biology	分子細胞学 Molecular Cell Biology	藤本 豊士 教授 FUJIMOTO, Toyoshi
	機能組織学 Functional Anatomy and Neuroscience	木山 博資 教授 KIYAMA, Hiroshi
	細胞生物学 Cell Biology	宮田 卓樹 教授 MIYATA, Takaki
	超微形態学 Ultrastructural Morphology	
病理病態学 Pathology	生体反応病理学 Pathology and Biological Responses	豊國 伸哉 教授 TOYOKUNI, Shinya
	分子病理診断学 Molecular Diagnosis	
	腫瘍病理学 Tumor Pathology	(高橋 雅英 教授 TAKAHASHI, Masahide)
	神経機能病理学 Neuropathology	
発生・再生医学 (協力) Development	分子病理学 Molecular Pathology 附属神経疾患・ 腫瘍分子医学研究センター 先端応用医学部門	高橋 雅英 教授 TAKAHASHI, Masahide
細胞工学 (連携) Cancer Genetics	細胞工学 Cancer Genetics 愛知県がんセンター 研究所	関戸 好孝 客員教授 SEKIDO, Yoshitaka
		瀬戸 加大 客員教授 SETO, Masao
	細胞腫瘍学 Cellular Oncology	稲垣 昌樹 客員教授 INAGAKI, Masaki
		葛島 清隆 客員教授 KUZUSHIMA, Kiyotaka
社会生命科学 Social Life Science	法医・生命倫理学 Legal Medicine and Bioethics	石井 晃 教授 ISHII, Akira
	環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health	加藤 昌志 教授 KATO, Masashi
	予防医学 Preventive Medicine	
	国際保健医療学・ 公衆衛生学 Public Health and Health Systems	青山 温子 教授 AOYAMA, Atsuko
	医療行政学 Healthcare Administration	濱嶋 信之 教授 HAMAJIMA, Nobuyuki
健康増進医学 (協力) Health Promotion Medicine	健康栄養医学 Human Nutrition	石黒 洋 教授 ISHIGURO, Hiroshi
	健康スポーツ医学 Sports Medicine 総合保健体育 科学センター	押田 芳治 教授 OSHIDA, Yoshiharu
	精神健康医学 Psychopathology and Psychotherapy	小川 豊昭 教授 OGAWA, Toyoaki
疫学 (連携) Epidemiology	疫学 Epidemiology 愛知県がんセンター 研究所	田中 英夫 客員教授 TANAKA, Hideo
		近藤 英作 客員教授 KONDO, Eisaku

## ● 臨床医学領域

大講座名 Field	専門分野 Department	担当教授 Professor
病態内科学 Internal Medicine	血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology	
	循環器内科学 Cardiology	室原 豊明 教授 MUROHARA, Toyoaki
	消化器内科学 Gastroenterology and Hepatology	後藤 秀実 教授 GOTO, Hidemi
	呼吸器内科学 Respiratory Medicine	長谷川 好規 教授 HASEGAWA, Yoshinori
	糖尿病・内分泌内科学 Endocrinology and Diabetes	大磯 ユタカ 教授 OISO, Yutaka
	腎臓内科学 Nephrology	松尾 清一 教授 MATSUO, Seiichi
高次医用科学 High-Technology Application of Medicine	量子医学 Radiology	長縄 慎二 教授 NAGANAWA, Shinji
	量子介入治療学 Interventional & Therapeutic Radiology	
	放射線治療学 Radiation Oncology	
	臓器病態診断学 Pathology and Laboratory Medicine	中村 栄男 教授 NAKAMURA, Shigeo
	病態構造解析学 Diagnostic Pathology	
	がん薬物療法学 Clinical Oncology and Chemotherapy	(安藤 雄一 教授 ANDO, Yuichi)
脳神経病態制御学 Clinical Neurosciences	神経内科学 Neurology	祖父江 元 教授 SOBUE, Gen
	精神医学 Psychiatry	尾崎 紀夫 教授 OZAKI, Norio
	精神生物学 Psychobiology	
	脳神経外科学 Neurosurgery	若林 俊彦 教授 WAKABAYASHI, Toshihiko
	脳神経先端医療 開発学 Frontier Surgical Neuroscience	
	脳血管内治療学 Endovascular Neurosurgery	
頭頸部・感覚器外科学 Head and Neck and Sensory Organ Medicine	眼科学 Ophthalmology	寺崎 浩子 教授 TERASAKI, Hiroko
	感覚器障害制御学 Protective Care for Sensory Disorders	
	耳鼻咽喉科学 Otorhinolaryngology	中島 務 教授 NAKASHIMA, Tsutomu
	認知・言語医学 Cognitive and Speech Medicine	
	顎顔面外科学 Maxillofacial Surgery	上田 実 教授 UEDA, Minoru
	咀嚼障害制御学 Protective Care for Masticatory Disorders	
病態外科学 Surgery	腫瘍外科学 Surgical Oncology	柳野 正人 教授 NAGINO, Masato
	血管外科学 Vascular Surgery	古森 公浩 教授 KOMORI, Kimihiro
	消化器外科学 Gastroenterological Surgery	小寺 泰弘 教授 KODERA, Yasuhiro
	移植・内分泌外科学 Transplantation and Endocrine Surgery	
	心臓外科学 Cardiac Surgery	碓氷 章彦 教授 USUI, Akihiko
	呼吸器外科学 Thoracic Surgery	横井 香平 教授 YOKOI, Kouhei
	小児外科学 Pediatric Surgery	
	泌尿器科学 Urology	後藤 百万 教授 GOTOH, Momokazu
運動・形態外科学 Musculoskeletal and Cutaneous Medicine	整形外科学 Orthopaedics	石黒 直樹 教授 ISHIGURO, Naoki
	リウマチ学 Rheumatology	
	手の外科学 Hand Surgery	平田 仁 教授 HIRATA, Hitoshi
	皮膚病態学 Dermatology	秋山 真志 教授 AKIYAMA, Masashi
	皮膚結合組織病態学 Connective Tissue Disease and Autoimmunity	
	形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery	亀井 讓 教授 KAMEI, Yuzuru

大講座名 Field	専門分野 Department	担当教授 Professor
生体管理医学 Biomedical Regulation	麻酔・蘇生医学 Anesthesiology	西脇 公俊 教授 NISHIWAKI, Kimitoshi
	臨床感染統御学 Infectious Diseases	八木 哲也 教授 YAGI, Tetsuya
	救急・集中治療医学 Emergency and Critical Care Medicine	松田 直之 教授 MATSUDA, Naoyuki
病態医療学 (協力) Clinical Management Medicine	手術医療学 Operation Medicine 病院 手術部	
	細胞治療医学 Cell Therapy Medicine 病院 輸血部	松下 正 教授 MATSUSHITA, Tadashi
	病理組織医学 Anatomical Pathology 病院 病理部	
	光学医療学 Diagnostic and Therapeutic Endoscopy 病院 光学医療診療部	
	放射線医療学 Clinical Radiology 病院 放射線部	
	画像情報診断・工学 Diagnostic Medical Image Processing 情報科学研究科	
発育・加齢医学 Medicine in Growth and Aging	小児科学 Pediatrics	小島 勢二 教授 KOJIMA, Seiji
	成長発達医学 Developmental Pediatrics	
	発達・老年精神医学 Developmental and Geriatric Psychiatry	
	地域在宅医療学・老年科学 Community Healthcare and Geriatrics	葛谷 雅文 教授 KUZUYA, Masafumi
	産婦人科学 Obstetrics and Gynecology	吉川 史隆 教授 KIKAWA, Fumitaka
	生殖器腫瘍制御学 Reproductive Oncology	
	総合診療医学 Family and Community Medicine	伴 信太郎 教授 BAN, Nobutaro
周産母子医学 (協力) Maternal and Perinatal Care	周産母子医学 Maternal and Perinatal Care 病院 総合周産期 母子医療センター	
親と子どもの 精神医学 (協力) Child and Adolescent Psychiatry	親と子どもの心療学 Child and Adolescent Psychiatry 病院 親と子どもの心療科	本城 秀次 教授 HONJO, Shuji
総合管理医学 (協力) Comprehensive Ambulatory Medicine	総合医学教育学 Medical Education 医学部附属 総合医学教育センター	植村 和正 教授 UEMURA, Kazumasa
	医療安全管理学 Quality and Patient Safety 病院 医療の質・安全管理部	長尾 能雅 教授 NAGAO, Yoshimasa

## ● 統合医薬学領域

大講座名 Field	専門分野 Department	担当教授 Professor
分子医薬学 Molecule Pharmacology	薬物動態解析学(協力) Molecular Pharmacokinetics 環境医学研究所	澤田 誠 教授 SAWADA, Makoto
	分子機能薬学(協力) Molecular Pharmaco-Biology	益谷 央豪 教授 MASUTANI, Chikahide
	トキシコゲノミクス Toxicogenomics	横井 毅 教授 YOKOI, Tsuyoshi
臨床医薬学 Clinical Pharmacology	医療薬学 (協力) Clinical Pharmacy 病院 薬剤部	山田 清文 教授 YAMADA, Kiyofumi
	化学療法学 (協力) Clinical Oncology and Chemotherapy 病院 化学療法部	安藤 雄一 教授 ANDO, Yuichi
	生物統計学 Biostatistics	松井 茂之 教授 MATSUI, Shigeyuki
	医薬品規制学 Regulatory science of pharmaceuticals	
医薬品開発学 (連携) Pharmaceutical R & D	実践医薬品開発学 Practical Pharmaceutical R & D アステラス	宮田 桂司 客員教授 MIYATA, Keiji 澤本 泰治 客員教授 SAWAMOTO, Taiji
	応用医薬品開発学 Applied Pharmaceutical R & D ノバルティス	渡邊 敏文 客員教授 WATANABE, Toshihfumi 廣瀬 徹 客員教授 HIROSE, Toru
医薬品管理学 (連携) Pharmaceutical Management	統計数理学 Mathematical Statistics 統計数理研究所	

(2013年5月1日現在)

### MD・PhDコース

研究志向の強い医学部生が、大学院に飛び入学して、非常に早い時期に研究を体験できるコース(下図②参照)。医学部の4年次または5年次を修了時にいったん休学して大学院で指導を受け、医学博士号(PhD)の取得を目指す。その後、医学部に復学して医学士(MD)になることも可能。

#### ● 対象者

4年次または5年次を修了し、成績優秀かつ研究志向の強い名古屋大学医学部医学科生。各学年で毎年数名程度内。

#### ● 選抜方法

基礎医学セミナー指導教官の推薦を受け、委員会で審査。

### 卒直後コース

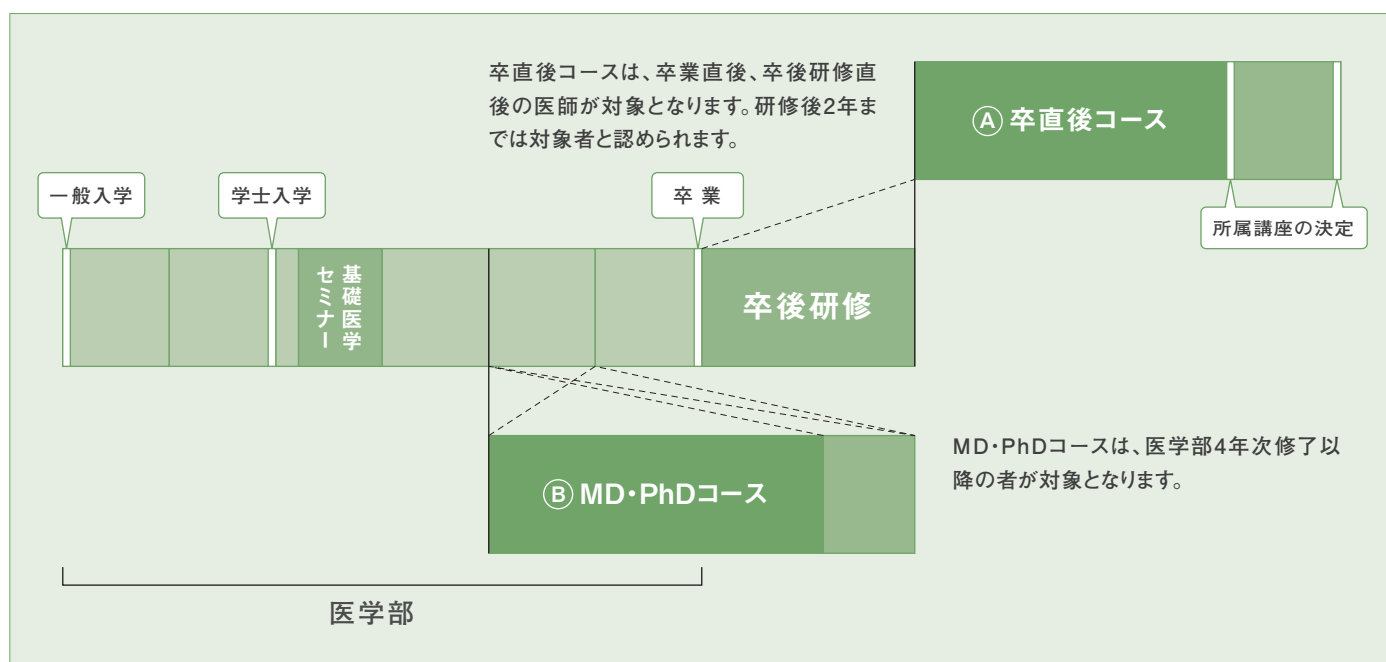
研究志向の強い医師が、医学部卒業直後に入学し、臨床業務に束縛されずに早期に研究に専念できるコース(下図①参照)。研究科長が指導責任者として、基礎講座、臨床講座と連携して総合的な教育プログラムに参画する。必要があれば経済的な援助も行われる。大学院医学系研究科3年次編入者は、本コースへの入学を原則とする。

#### ● 対象者

医学部卒業直後、または卒後研修修了直後および、その2年後までの医師。

#### ● 選抜方法

大学院医学系研究科出願時に希望をとり、受験資格審査と並行して意志の確認、選抜を行う。願書には基礎医学セミナーまたは臨床実習の指導教官などからの推薦状を添付する。大学院医学系研究科入学者の中から毎年10名程度内。



近隣に所在する、強い特色のある優れた諸研究機関と連携して、独自性があり、より高い成果を目指す研究に取り組む連携講座。現在、名古屋大学大学院医学系研究

科全体として7つの研究機関との間での連携が進行中であり、合計で9つの連携講座がある。

## 老化基礎科学

Aging Research

所属	総合医学専攻	設置	2000年9月1日
連携先	国立長寿医療研究センター研究所		
担当教員	丸山 光生 客員教授 MARUYAMA, Mitsuo 柳澤 勝彦 客員教授 YANAGISAWA, Katsuhiko		

老化あるいは高齢期疾患に対し、老化関連遺伝子に注目して、分子・細胞レベルで起こるメカニズムを深く理解し、解明への糸口をつかむ研究の最先端を推進。また基礎研究からの臨床応用への試みとして、アルツハイマー病に対する新しい抗種(seed)医薬の開発についても積極的に取り組む。

## 免疫不全統御学

AIDS Research

所属	総合医学専攻	設置	2009年4月1日
連携先	国立病院機構名古屋医療センター		
担当教員	杉浦 互 客員教授 SUGIURA, Wataru		

AIDS/HIV感染症は、抗ウイルス薬剤治療の進歩によって予後は大きく改善されたが、まだ根治には至らない。本講座では、AIDS/HIV感染症に対しての宿主(ヒト)の対処と、ウイルスの薬剤に対する耐性化の機序を、分子レベルで解明するための研究に取り組む。

## 神経生化学

Neurochemistry

所属	総合医学専攻	設置	1999年4月1日
連携先	愛知県心身障害者コロニー		
担当教員	中山 敦雄 客員教授 NAKAYAMA, Atsuo 永田 浩一 客員教授 NAGATA, Koichi		

本講座は、連携先の愛知県心身障害者コロニー内に設置されている。発達障害の予防・治療を念頭に置いて、神経系の発生と発達を制御する機構についての研究を行う。「細胞極性関連蛋白質の作用機序と神経発達」など3つの主な研究分野がある。

## 細胞工学

Cancer Genetics

所属	総合医学専攻	設置	2000年5月29日
連携先	愛知県がんセンター研究所		
担当教員	瀬戸 加大 客員教授 SETO, Masao 関戸 好孝 客員教授 SEKIDO, Yoshitaka		

がんセンター中央病院と連携して血液腫瘍の研究を行う。血液腫瘍では、その「成因や分類あるいは病気の進行」と「ゲノム(染色体)や遺伝子の異常」との間に密接な関係があり、この関係を明らかにすることを通じてヒトの腫瘍を遺伝学的・分子生物学的により深く理解することを目指す。

## 細胞腫瘍学

Cellular Oncology

所属	総合医学専攻	設置	2007年4月1日
連携先	愛知県がんセンター研究所		
担当教員	稲垣 昌樹 客員教授 INAGAKI, Masaki 葛島 清隆 客員教授 KUZUSHIMA, Kiyotaka		

がんに対する免疫応答には未知の部分が多く、臨床研究と基礎研究とをバランスよく推進することが重要である。この考えのもと、ヒトの免疫担当細胞を用いた非臨床研究、がんセンター中央病院および全国の大学などとの臨床研究が一体となった活動を推進している。

## 疫学

Epidemiology

所属	総合医学専攻	設置	1998年10月29日
連携先	愛知県がんセンター研究所		
担当教員	田中 英夫 客員教授 TANAKA, Hideo 近藤 英作 客員教授 KONDO, Eisaku		

2007(平成19)年度に愛知県は「愛知県がん対策推進計画」を策定し、その中で、がんの死亡率(75歳未満)を10年間で自然減を含めて20%低下させる目標を設定。この目標の実現に貢献するべく、本講座では分析疫学、予防介入疫学および記述疫学の研究を推進している。

## 実践薬品開発学

Practical Pharmaceutical R & D

所属	総合医学専攻	設置	2013年4月1日
連携先	アステラス製薬株式会社		
担当教員	宮田 桂司 客員教授 MIYATA, Keiji 澤本 泰治 客員教授 SAWAMOTO, Taiji		

我が国に本部をもつ製薬企業(アステラス製薬株式会社)から教員を招へいし、実際に行われる医薬品開発についてその基礎から出口に至るまでの一連の流れを教育し、また研究所などで行われる開発の実際を教育する。

## 応用医薬品開発学

Applied Pharmaceutical R & D

所属	総合医学専攻	設置	2013年4月1日
連携先	ノバルティス ファーマ株式会社		
担当教員	渡邊 敏文 客員教授 WATANABE, Toshifumi 廣瀬 徹 客員教授 HIROSE, Toru		

海外に本部を置く製薬企業(ノバルティス ファーマ株式会社)から教員を招へいし、国際的立場から創業の世界の潮流を教育し、また、治験の国際協調などの動向を教育する。なお、連携講座に所属する大学院生に対しては医学系研究科の専任教員が副指導教員となり複数指導体制によって教育研究指導に当たる。

## 統計数理学

Mathematical Statistics

所属	総合医学専攻	設置	2013年4月1日
連携先	統計数理研究所		
担当教員			

統計数理学分野は生物統計の基礎となる統計数理を教育・研究するものであり、我が国で人材不足が深刻な生物統計学者の育成を下支えする役割も担う。なお、連携講座に所属する大学院生に対しては医学系研究科の専任教員が副指導教員となり複数指導体制によって教育研究指導に当たる。

(2013年5月1日現在)

奨学を目的とした民間企業などからの寄附金により、名古屋大学の主体性のもとに設置される講座。それぞれのテーマに沿って、教育・研究の豊富化や活発化が図られる。

ている。講座の名称はそこでの教育・研究のテーマを示し、寄附者が希望した場合は、寄附者名がつけられる。大学院医学系研究科には、現在18の寄附講座がある。

## 腎不全総合治療学寄附講座

Department of Renal Replacement Therapy

設置 2010年2月1日

担当教員 伊藤 恭彦（寄附講座教授） ITO, Yasuhiko

日本で30万人を超えた末期慢性腎不全患者に、血液透析、腹膜透析、腎移植の利点を生かす総合的腎不全管理を行うことは、強い社会的ニーズである。我々は2005年よりこの目的で治療研究を推進。2010年より現在の講座名で、当地区の腎不全医療の活性化を計り、また当地区で確立してきている教育プログラムを全国の医療関係者にも展開し、より理想的な総合的腎不全管理を目指して、腹膜透析を取り入れた研究・教育・臨床で活動している。

## 代謝病態学寄附講座

Department of Metabolic Medicine

設置 2010年10月1日

担当教員 濱田 洋司（寄附講座准教授） HAMADA, Yoji

生活習慣病は世界的に重大な社会問題であり、特に注目されるメタボリックシンドロームは、内臓肥満を基礎として動脈硬化症の危険因子が重積した病態である。本講座はこのメタボリックシンドロームを主な研究対象とし、その分子機構の解明および新たな治療標的の発見と薬剤の開発を目的とする。このテーマは同時にほかの生活習慣病の病態解明にもつながり、それらの画期的な治療法の確立も目指す。

## 消化器疾患先端研究寄附講座

Department of Advanced Research of Gastroenterology

設置 2011年1月1日

担当教員 石黒 和博（寄附講座准教授） ISHIGURO, Kazuhiro

消化器内科分野における難治性疾患の病態解明と新しい治療法・検査法の開発が本講座の目的である。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患、肝疾患、悪性腫瘍などの病態を分子レベルで解明し、その知見を新しい治療法・検査法の開発に応用していく。また研究を支援する新しい動物モデルやツールの開発も行っている。

## 造血細胞移植情報管理・生物統計学 (日本造血細胞移植学会) 寄附講座

Department of HSCT Data Management and Biostatistics

Endowed Chair: The Japan Society for

Hematopoietic Cell Transplantation

設置 2009年1月1日

担当教員 鈴木 律朗（寄附講座准教授） SUZUKI, Ritsuro

日本における造血細胞移植全国調査を担当し、登録率の向上、情報の精度向上を図る講座。全国調査から得られた結果の公表および活用を日本造血細胞移植学会の承認のもと、日本小児血液学会、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワークなどとの共同で行う。造血細胞移植医療に関する臨床試験などの支援を通して、わが国での移植医療のさらなる向上を目指す。また、アジア地域での造血細胞移植医療の向上にも貢献する。



---

---

## 分子循環器学(興和)寄附講座

Department of Molecular Cardiology  
Endowed Chair:Kowa

---

設置 2010年7月1日

担当教員 大内 乗有 (寄附講座教授) OUCHI, Noriyuki

---

近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、その治療法確立は社会的ニーズの高い課題である。本講座では、メタリックシンドローム・動脈硬化・虚血性疾患をはじめとした生活習慣病の病態生理、特にアディポサイトカイン・マイオカインなどの分泌因子の生理病態学的意義を細胞・個体レベルで解明。これら独自の基礎研究をベースとして、新しい治療法確立と、創薬開発につながる道筋を拓くことを目指す。

---

---

## 移植免疫学寄附講座

Department of Transplant Immunology

---

設置 2012年4月1日

担当教員 小林 孝彰 (寄附講座教授) KOBAYASHI, Takaaki

---

「安心、安全かつ効果的な移植医療」を提供するために、「基礎から臨床まで」「医療の現場を支える基盤の整備と強化」を目指す。免疫機能制御学寄附講座で得られた知見を生かし、臨床に直結した基盤研究を推進し、確実な基礎研究を確立する。将来の人材育成に積極的に関わり、免疫学、薬学、工学、農学まで幅広い研究コミュニティを創設し、病院、研究施設、企業との共同研究を全国レベルで展開する。

---

---

## CKD(慢性腎臓病) 地域連携システム寄附講座

Department of CKD Initiatives  
Regional cooperative system

---

設置 2008年11月1日

担当教員 安田 宜成 (寄附講座准教授) YASUDA, Yoshinari

---

日本の慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease:CKD)患者数は約1330万。CKDは末期腎不全の予備軍であり、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患の重大な危険因子となるため、その対策が緊急の課題である。CKD治療ではかかりつけ医と専門医の連携が重要だが、そのシステムは未確立である。本講座は、有効なCKD診療連携システムとCKD診療のエビデンスを構築し、日本のCKD対策に貢献する。

---

---

## 尿毒症病態代謝学寄附講座

Department of Advanced Medicine for Uremia

---

設置 2009年4月1日

担当教員 丹羽 利充 (寄附講座教授) NIWA, Toshimitsu

---

尿毒症の病態代謝を、おもに尿毒症毒素の観点から解明し、合併症の予防・制御法の科学的基盤確立を図る講座。これまで、尿毒症の進行因子として、尿毒症毒素であるインドキシル硫酸などの食事由来のタンパク代謝物が関与していることを明らかにしてきた。その分子メカニズム、特に細胞内情報伝達についてさらに詳細に解明する。また、動脈硬化などの合併症の分子メカニズムの解明なども目指す。

## 医療システム管理学寄附講座

Department of Medical System Management

設置 2009年4月1日

担当教員 杉浦 伸一 (寄附講座准教授) SUGIURA, Shinichi

## 外科感染症学寄附講座

Department of Surgical Infection

設置 2009年10月1日

担当教員 菅原 元 (寄附講座講師) SUGAWARA, Gen

## 地域医療教育学寄附講座

Department of Education for Community-Oriented Medicine

設置 2009年10月1日

担当教員 安井 浩樹 (寄附講座准教授) YASUI, Hiroki

## 小児集中治療学寄附講座

Department of Pediatric Intensive Care Medicine

設置 2011年11月1日

担当教員 筑紫 聡 (寄附講座講師) TSUKUSHI, Satoshi

## 障害児(者)医療学寄附講座

Department of developmental disability medicine

設置 2011年11月1日

担当教員 三浦 清邦 (寄附講座教授) MIURA Kiyokuni

先端領域イノベーション創出拠点として、「手のひらに名医・大病院を」を合い言葉に、ICT技術を活用した予防・早期医療の新システム構築を目指す講座である。地理的医療情報システム(GMIS)を用いた地域医療分析、携帯電話・タブレット端末などを利用したユビキタス移動体インフラ(UMIS)の医療への応用を目的とした社会的実証研究などを行っている。

周術期感染症の中でも、創感染は単純な合併症であるが、処置には苦痛を伴う上、在院日数の延長にもつながる大きな問題である。しかし、術後の創感染症を対象としたエビデンスレベルの高い介入研究は少ない。本講座では、創閉鎖のベストプラクティスの同定をゴールに定め、創感染症の前向きな調査、リスク同定、創閉鎖方法の無作為比較試験を行う。

21世紀の新たな地域医療構築と、地域指向型医療人(Community-Oriented Healthcare Provider)の育成を目指して、愛知県等の寄附講座として開講した。「地域の医療ニーズ調査・政策提言」「啓発活動・相互理解の推進」「地域ニーズ指向型医療人の育成」を活動の3本の柱とする。近年は、シミュレーションを用いた教育・評価システムの構築、多職種連携教育(Interprofessional Education:IPE)による、地域医療教育体制の構築にも取り組んでいる。

現在小児医療専門領域の集学的医療を提供するために人材育成が課題となっている。小児科・整形外科・脳神経外科の各診療領域において小児医療の専門スタッフを養成するための講座である。救急救命患者管理(PICU)、重度外傷、小児がんなど広範囲にわたり小児医療に対応できる人材の育成を行う。卒後教育を原則とし①若手教育と人材確保 ②県内専門施設のレベルアップ ③一般市民県民への情報公開と現状把握 を行っていく。

「愛知県地域医療再生計画」に基づき愛知県の寄附により設置された本講座の目的は、不足している障害児(者)医療に従事する医師を小児科・整形外科・児童精神科の3診療科が協力して養成することである。本講座の対象は小児期発症の脳性麻痺・重症心身障害、発達障害等の児(者)である。すべての医者が障害児(者)医療を理解し、差別のない医療環境を実現するために、学生、若手医師への教育、社会への啓発活動を行う。

## 精神医療学寄附講座

Department of Mental Health

設置 2011年11月1日

担当教員 入谷 修司 (寄附講座教授) IRITANI, Shuji

この講座は、愛知県の地域医療再生計画に基づいて県からの依頼・要請によって設立されたものであり、地域医療の再生と人材育成を主たる目的として設置された。この講座の基本的理念は「生物・心理・社会的側面に配慮し、実証的データと患者・家族のニーズに基づく精神医療の実践」であり、愛知県の医療行政と連携した地域精神医療への貢献を目的とする。

## 地域総合ヘルスケアシステム開発寄附講座

Department of Development for Community-oriented Healthcare System

設置 2012年3月1日

担当教員 松葉 泰昌 (寄附講座講師) MATSUBA, Yasumasa

本講座は、岐阜県中津川市をモデル地区として、行政、地域の医療・ケア従事者、名古屋大学大学院医学系研究科が協同して、地域総合ヘルスケアシステムを構築することを目的としている。保健、医療、介護・福祉の各分野が一貫した構想の下、関連する他職種が連携して住民へのサービスを提供すること、さらにそのシステムの中で他職種連携医療教育を実践し、地域親和性の高い医療人を育成することが活動の指針となる。

## 肺高血圧先端医療学寄附講座

Department of Advanced Medicine in Cardiopulmonary Disease

設置 2012年4月1日

担当教員 近藤 隆久 (寄附講座教授) KONDO, Takahisa

難治性疾患である肺高血圧症の病態解明と新規治療法の評価・開発が本講座の使命である。肺高血圧症は予後不良と考えられてきたが画期的な新薬が次々登場し、早期発見・早期治療の必要性が唱えられ、本疾患の教育・啓蒙活動は急務の課題である。本疾患は、循環器疾患・膠原病などの基礎疾患と並行して治療しなければならないことも多く、他科の専門医との連携は不可欠である。本講座は、基礎研究による病態解明ならびに関連施設も含めた治療システムを構築し、肺高血圧症に対する治療体系確立を目指している。

## 地域包括ケアシステム学寄附講座

Department of Comprehensive Community Care Systems

設置 2012年10月1日

担当教員 鈴木 裕介 (寄附講座准教授) 廣瀬 貴久 (寄附講座助教)

超高齢社会の根幹を支える今後の地域ケアの姿として、長年住み慣れた地域において、医療・介護・予防および生活支援を地域全体でサポートするシステムを構築することが地域包括ケアの概念である。本講座は「地域包括ケア」に特化した日本で唯一の大学院講座として、今後様々な研究・教育・ヘルスプロモーション活動を通じて、超高齢社会における個別性と汎用性を重視した地域包括ケアの仕組み作りに寄与することを行動目標としている。

## 下肢関節再建学寄附講座

Department of Hip and Knee Reconstructive Surgery

設置 2013年4月1日

担当教員 長谷川 幸治 (寄附講座教授) 濱田 恭 (寄附講座助教)

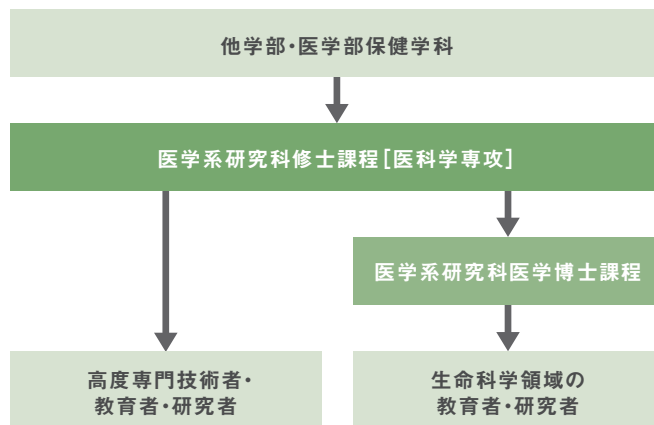
高齢者の増加に伴い運動器疾患による機能低下が急増している。本講座は特に歩行障害をきたす下肢関節の変性疾患(変形性股関節症・変形性膝関節症)、大腿骨近位部骨折の病態研究や総合的治療を研究目的としている。関連病院と多施設研究によって人工股関節全置換術、人工膝関節全置換術、骨切り術などの安全で正確な治療法の確立・教育をおこなう。ロコモティブ症候群に対する社会への啓蒙・QOL向上の運動プログラム開発も行う。

(2013年5月1日現在)

## 医科学専攻

入学定員  
20名

医・歯・獣医学科以外の学部を卒業した上でその分野と医学分野とを融合的に探求しようとする学生に、モデルコースを設定して医学の基礎と応用法を学ばせる専攻。卒業後、技術者・教育者などを目指す、または医学博士課程に進んだ上で教育者・研究者などを目指す(右図参照)ための高度な専門知識・技術を教育する。



## 履修のモデルコース

コース名	主要科目	内容
遺伝子医学コース	生化学 病理学 免疫学	遺伝子治療、遺伝子診療など分子生物学と臨床医学の接点にある研究課題について、新しいベクターの導入法、有効な診断法などの研究を行い、これらの研究・技術開発に携わる人材の養成を目的とする。
細胞医学コース	解剖学 生理学 薬理学	細胞の微細構造と機能の連関、細胞の刺激受容・応答機構、細胞内シグナル伝達機構、細胞への薬剤作用機構等の分子メカニズムあるいは細胞システムとしての組織や個体の機能や情報伝達機構の研究を行い、これらの研究・技術開発に携わる人材の養成を目的とする。
医用工学・ 医用情報学コース	医療情報学 生理学	広く医療および医学研究に用いられている機器の製造・開発の関連産業、あるいは製造食品産業などにおける生理学・薬理学・病理学・解剖学・生体工学などの研究に従事する研究・技術者のほか病院における、メディカルエレクトロニクス・メディカルエンジニアリング・補綴機器開発・医用情報管理に従事する医科学の専門的技術と知識を有する高度技術者の養成を目的とする。
医療薬学コース	医療薬学	大学薬学部卒業者であって、医学・医療の専門的知識を要する臨床治験をコーディネートするクリニカルリサーチコーディネーター、治験の評価や監査を行うモニタリング・監査担当者、あるいは薬物療法を主体に患者にファーマシューティカルケアを行う臨床薬剤師の養成を目的とする。
人間生態環境学コース	微生物学 免疫学	人間は絶えず微生物・寄生虫との戦いの中で健康を保ち、生命を維持してきた。効果の高い抗生物質・駆虫薬の発見により人類は、感染を克服できるかに見えたが、耐性菌による難治感染症の出現、アトピーの多発など、新たな問題を生じている。一方、環境ホルモンやオゾン層破壊のような地球環境変動と健康の問題が浮上してきた。人間と微生物・寄生虫などのさまざまな環境因子との関係を生態系として考え、食品産業・健康医療産業・行政分野で活躍できる人材の養成を目的とする。
健康増進・ スポーツ医学コース	社会医学 生理学	高度情報化社会や車社会への移行にともなって生活習慣病といわれる病気が増えている。その予防・克服のために運動療法が使われるようになり、主治医と密接に連携して適切な処方指導のできる人材の需要が高まっている。また、質の良い活動的な老後人生への意欲が高まるなか、福祉施設でこれらの人材の需要も強くなってきた。これらの人材の養成を目的とする。
医療マネジメント学コース	社会医学 医療情報学	医療関連企業の経営や国または地方自治体の行政、あるいは国際協力事業などの業務においてリーダーシップを発揮するために、医学および医療の基礎知識を有し、なおかつ、医療システム・医療経営管理などマネジメントの何たるかを知り、社会医学的研究方法に通じた職業的専門家の養成を目的とする。

## 医科学専攻 医療行政コース

### Young Leaders' Program (YLP)

入学定員  
10名

Young Leaders' Program (YLP)は、アジアおよびヨーロッパなどの将来のナショナルリーダーの養成に貢献するとともに、日本に対する理解を深めることを通じて、世界各国指導者層の間にネットワークを創り、日本を含む諸国間の友好関係の構築、政策立案機能の向上に寄与することを目的とするもので、日本政府(文部科学省)の国費外国人留学生制度のひとつである。

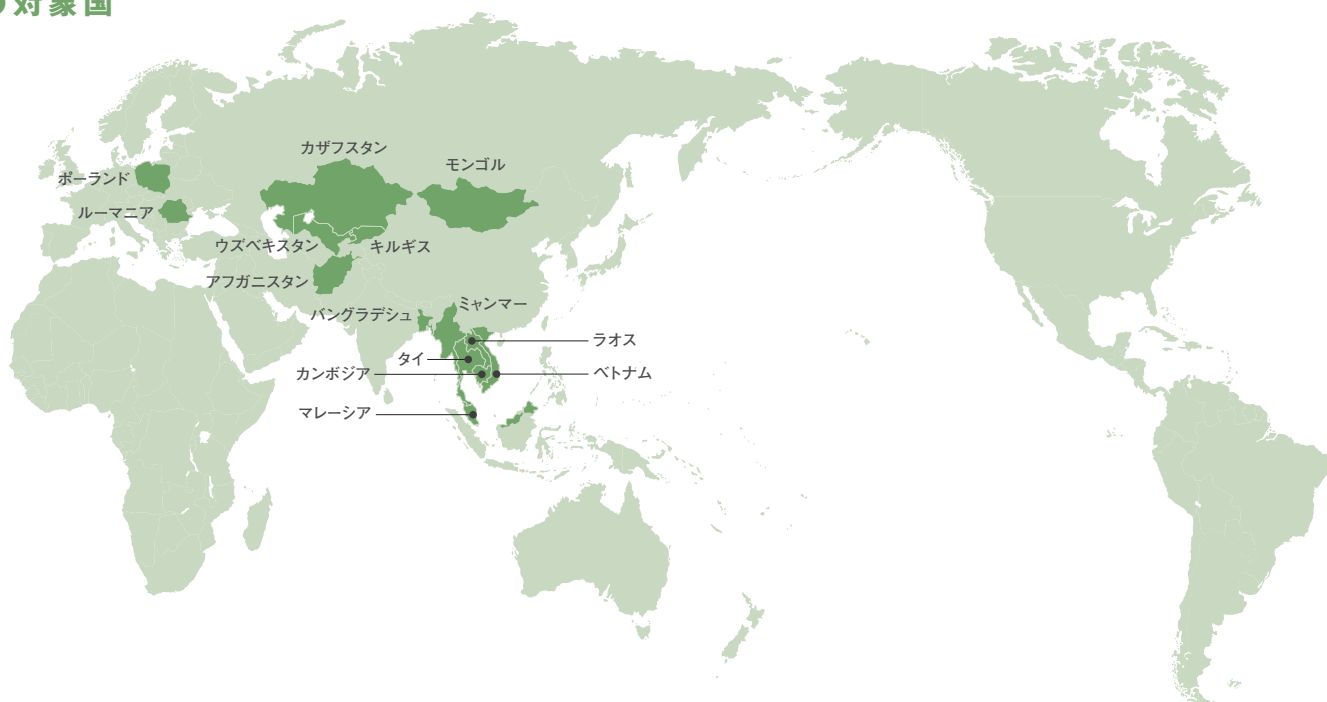
開講時期は10月で修学期間は原則1年、修了時に「修士」の学位を授与する。講義はすべて英語で行っている。欧米ともアジア諸国とも交流の深い日本の利点を活用して、人的ネットワークを創造できる将来のナショナルリーダー育成にふさわしい多彩なカリキュラムを組んでいる。その例としてあげられるのが、医療行政にかかわりのある各分野の専門家による特別講義、インターンシップ、学外研

修であり、海外講師による講演もたびたび実施している。Young Leaders' Program (YLP)のもうひとつの特徴は論文作成に重点を置いていることである。1年という極めて短い期間に修士論文を英語で書きあげ、英文で発行されている国際的ジャーナルに投稿することを学生に求めている。国際的ジャーナルに受理されるレベルの論文を作成することを目標として論文の書き方を体得し、論文のプレゼンテーションを行う能力を養うことができるようにカリキュラムを設定している。修士論文が国際的ジャーナルに受理されれば本人のみならず、名古屋大学・留学生の出身国にとっても、また、情報のシェアという観点から見れば、世界的にも貴重な財産となり得るからである。

本プログラムの修了生たちは、出身国の保健省など医療分野を担当する省庁や、WHO、世界銀行などの国際機関で活躍している。

Young Leaders' Program (YLP)の対象国は下図の14カ国であり、募集は対象国の在外公館を通してのみ行っている。(名古屋大学への直接応募は行っていない)

### ● 対象国



Young Leaders' Program (YLP)について詳しくは

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/ylp/jp/index.html>

名古屋大学医学部医学科は、豊かな人間性・高い倫理性・科学的論理性をそなえ、創造力に富む医師・医学研究者を養成することを目標とした、6年間一貫教育の学科。

1998年～2000年に行われた大学院医学系研究科の

改組を受けて、医学部教員はすべて大学院教員が兼務。高い専門性を持つ医師・研究者でもある大学院教員たちが、医学科学生のために作られた詳細な授業計画(シラバス)に則って、充実した教育を行っている。

## ●カリキュラム

1年生	前期	<b>全学教育科目</b> (講義・実習・演習) [基礎科目(理系・文系・全学)] [教養科目(理系・文系・全学)]		<b>医学入門</b>
	後期			
2年生	前期	<b>基礎医学</b> (講義・実習)		
	後期			
3年生	前期	<b>基礎医学セミナー</b>		
	後期			
4年生	前期	<b>社会医学</b> (講義・実習)		
	後期	<b>臨床医学</b> (チュートリアル・講義・基本的臨床技能実習)	<b>社会医学</b> (講義)	
5年生	前期	<b>臨床実習</b>		<b>臨床病理学実習</b>
	後期			
6年生	前期	<b>選択実習</b>		
	後期	<b>卒業試験</b>		

## 附属施設

鶴舞キャンパスに医学部分館、大幸キャンパスに保健学図書室があり、医学部・医学系研究科の学生、院生、研究者、附属病院の医療関係者を主な利用対象者とする。従来の図書館資料の提供のほかに電子ジャーナル、電子教科書、各種データベースなど新しい電子資料の導入、各種ガイダンスや講習会開催、PCコーナーの設置、Nagoya Journal of Medical Scienceおよび欧文業績録の編集とwebでの公開など、教育・研究の支援サービスを提供している。

## 名古屋大学附属図書館医学部分館

医学部分館4階にある医学部史料室では、名古屋大学医学部の歴史を東海地区のなかで位置づけ将来を展望する場として、医学部および関連資料を展示・保存し、webで公開している。

附属図書館医学部分館 独自ホームページ

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/>

附属図書館医学部分館保健学図書室ホームページ

▶ <http://health.met.nagoya-u.ac.jp/LIB/>

近代医学の黎明デジタルアーカイブ

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history>

## 附属施設

神経疾患と悪性腫瘍という、2つの特定領域医療の発展を図るセンター。疾患の発症機序の解明・モデル動物の作製・新しい遺伝子診断法の開発・分子標的治療法の

## 附属神経疾患・

## 腫瘍分子医学研究センター 2003年4月1日設置

開発など、社会的要請の強い研究を系統的に推進し、得られた成果を高度先端医療へ橋渡しする、国際的にも存在意義の高い拠点を目指す。

部門	分野	概要	担当教員
<b>腫瘍病態統御部門</b> Department of Oncology 遺伝子変異による発癌機構や癌細胞の浸潤・転移の分子機構を解明する。	分子腫瘍学 Division of Molecular Carcinogenesis	がんの分子病態を統合的に解明し、難治がんの革新的診断・治療法を開発する。	高橋 隆 (教授) TAKAHASHI, Takashi
	腫瘍生物学 Division of Cancer Biology	がん遺伝子・がん抑制遺伝子による発癌の分子メカニズムを解明する。	千賀 威 (准教授) SENGA, Takeshi
<b>神経疾患病態統御部門</b> Department of Neuroscience 神経細胞の発生・分化および神経筋疾患の分子機序に関する研究を行う。	神経情報薬理学 Division of Neuroscience	神経細胞の極性形成・軸索ガイダンス・シナプス形成の分子機構を解明する。	貝淵 弘三 (教授) KAIBUCHI, Kozo
	神経遺伝情報学 Division of Neurogenetics	神経筋接合部の病態分子機構解明と病態制御研究を行うとともに各種神経疾患におけるスプライシング異常症の分子機構を解明する。	大野 欽司 (教授) OHNO, Kinji
<b>先端応用医学部門</b> Department of Advanced Medical Science 悪性腫瘍・神経変性疾患の病態解明・モデル動物の作製・治療の開発を行う。	分子病理学 Division of Molecular Pathology	遺伝子改変マウスを用いた個体レベルでの血管新生、神経新生の研究を行う。	高橋 雅英 (教授) TAKAHASHI, Masahide
	機能分子制御学 Division of Molecular Biochemistry	癌細胞や神経細胞の増殖・分化・死の制御機構を解明し、難病の新しい治療法を開発を目指す。	古川 鋼一 (教授) FURUKAWA, Koichi
	疾患モデル解析学 Division of Disease Models	遺伝子組み換えマウスなどを用いて、疾患モデル動物を作製し、その病因解明と治療法の確立を目指す。	武井 佳史 (准教授) TAKEI, Yoshifumi
	分子標的治療学 Division of Molecular Mycology and Medicine	細胞分裂に関わる遺伝子を中心にがん化学療法の標的分子について分子遺伝学的・細胞生物学的研究を行う。	中川 善之 (准教授) NAKAGAWA, Yoshiyuki

## 附属施設

### 附属医学教育研究支援センター

2004年5月1日設置

4部門からなる本センターは、約25年前に設立された実験動物部門と分析機器部門を母体とし、2004年に統合された。研究設備の集約と、技術職員の集中配置によっ

て、高度化・多様化する研究ニーズに対応。大学院医学系研究科と医学部の教育・研究を広く支援している。

部門	概要
実験動物 Division for Research of Laboratory Animals	大学院医学系研究科と附属病院とで必要とされる動物実験を集中的に管理する部門。動物福祉の観点から適正で、なおかつ科学的に評価される動物実験が可能な環境を整えている。
分析機器 Division for Medical Research Engineering	大学院医学系研究科における、各種分析・計測機器の共同利用のための部門。研究室ごとに機器を分散させずに一カ所に集中させることで、最先端機器をより有効に活用できる。名古屋大学他学部・学外からも利用可能。
先端領域支援 Division for Advanced Medical Research	将来の基礎系後継者養成を目的とする部門。
特任研究 Division for Designated Research	大学院医学系研究科における研究・教育の積極的かつ機動的な展開・推進および充実を図るため、外部からの受け入れ資金を活用して形成する部門。

## 附属施設

### 附属総合医学教育センター

(附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター)

2005年8月1日設置

医学部と附属病院のすべての医療職の卒前、卒後、そして生涯教育の統括的役割を担っている。業務は医学科・保健学科の教員支援、附属病院における医科及び歯科

研修医の卒後臨床研修の実施と管理、病院職員教育、附属病院及び関連病院の指導医のための講習会開催などからなり、若手医師のキャリア支援も行う。

担当教員 植村 和正 (教授) UEMURA, Kazumasa

## 附属施設

### 附属クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC)

2013年4月1日設置

2006年度に開設されたスキルス&ITラボラトリーでは、基本的な臨床技能や態度教育が行われ、年間2,000件弱、延べ20,000人の方々に利用されている。平成24年度には、最先端の外科診断・治療訓練のための最新鋭のシミュレーターやトレーニングマシンが導入されて、名古屋大

学医学系研究科附属クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC)となった。今回導入された設備や機器の充実度は国内トップクラスである。今後は、地域医療に携わるあらゆる医療職の卒後研修・専門研修から生涯研修にも貢献していく予定である。

担当教員 植村 和正 (教授) UEMURA, Kazumasa



## 大幸キャンパス

# 大学院医学系研究科 博士課程

## 医学部 保健学科

名古屋市東区の名古屋大学大幸キャンパスには、  
大学院医学系研究科博士課程と医学部保健学科がある。  
医学科や附属病院などと連携しながら、  
看護・医療技術・リハビリテーションという  
コメディカル分野の教育・研究を総合的に推進している。

### 大学院医学系研究科 博士課程

医療テクノロジーや社会構造の進展にもなって変化する保健医療システムにおいて、高度な専門知識をもとに、臨床・管理・政策立案などでリーダーシップを発揮しうる医療従事者の養成を進めるとともに、学際的かつ先駆的な研究によって、保健科学分野における学術研究を推進する優れた研究者・教育者の養成にも重点を置く。

### 医学部 保健学科

変化する社会情勢のもと、コメディカル分野も高度化・複雑化し続けている。それに対応し、医療技術科学を学問領域として確立させることを基本姿勢として、優れた医療技術者・教育者・研究者を育成することを目指す。

## 大幸キャンパス

大学院医学系研究科 博士課程	看護学専攻	48
	医療技術学専攻	48
	リハビリテーション療法学専攻	49
医学部 保健学科		50

## 看護学専攻

人間の尊厳を尊重し、高度な専門性を保有する保健医療専門職業人を養成する。さらに医療技術科学分野において、エビデンスに基づいた学問を構築するための独創的かつ探求心に富む研究者・教育者の養成も目指す。

入学定員 [前期] 18名 [後期] 6名

前期課程	後期課程	担当教授	
基礎・臨床看護学講座 Fundamental and Clinical Nursing	基礎・臨床看護学講座 Fundamental and Clinical Nursing	山内 豊明 教授 太田 勝正 教授 池松 裕子 教授 安藤 詳子 教授 藤本 悦子 教授	YAMAUCHI, Toyoaki OTA, Katsumasa IKEMATSU, Yuko ANDO, Shoko FUJIMOTO, Etsuko
健康発達看護学講座 Nursing for Developmental Health	健康発達看護学講座 Nursing for Developmental Health	榊原 久孝 教授 梶田 悦子 教授 前川 厚子 教授 平井 眞理 教授 浅野 みどり 教授 奈良間 美保 教授 玉腰 浩司 教授	SAKAKIBARA, Hisataka KAJITA, Etsuko MAEKAWA, Atsuko HIRAI, Makoto ASANO, Midori NARAMA, Miho TAMAKOSHI, Koji

(2013年5月1日現在)

## 医療技術学専攻

人体の情報を、マクロ的見地とミクロ的見地からアプローチし、理解する研究者および教育者の育成を第一に考え、さらに医学物理士をはじめとする高度な専門職業人育成も図る。

入学定員 [前期] 20名 [後期] 7名

前期課程	後期課程	担当教授	
医用量子科学講座 Radiological Sciences	医用量子科学講座 Radiological Sciences	小寺 吉衛 教授 島本 佳寿広 教授 石樽 信人 教授 池田 充 教授 加藤 克彦 教授 磯田 治夫 教授 山本 誠一 教授 今井 國治 教授	KODERA, Yoshie SHIMAMOTO, Kazuhiro ISHIGURE, Nobuhito IKEDA, Mitsuru KATO, Katsuhiko ISODA, Haruo YAMAMOTO, Seiichi IMAI, Kuniharu
病態解析学講座 Pathophysiological Laboratory Sciences	病態解析学講座 Pathophysiological Laboratory Sciences	村手 隆 教授 小嶋 哲人 教授 涌澤 伸哉 教授 川部 勤 教授 近藤 高明 教授 長坂 徹郎 教授 永田 浩三 教授 石川 哲也 教授	MURATE, Takashi KOJIMA, Tetsuhito WAKUSAWA, Shinya KAWABE, Tsutomu KONDO, Takaaki NAGASAKA, Tetsuro NAGATA, Kozo ISHIKAWA, Tetsuya

(2013年5月1日現在)

## リハビリテーション療法学専攻

入学定員 [前期] 10名 [後期] 4名

変化する医療状況に十分対応できる研究者・高度職業人の育成を図る。さらに、さまざまな医療現場やほかの学問領域との連携など、多様で活力のある教育システムを作り、新しい研究領域を創設することも目指す。

前期課程	後期課程	担当教授	
理学療法学講座 Physical Therapy	理学療法学講座 Physical Therapy	河村 守雄 教授 鈴木 重行 教授 山田 純生 教授 鳥橋 茂子 教授 内山 靖 教授	KAWAMURA, Morio SUZUKI, Shigeyuki YAMADA, Sumio TORIHASHI, Shigeko UCHIYAMA, Yasushi
作業療法学講座 Occupational Therapy	作業療法学講座 Occupational Therapy	鈴木 國文 教授 寶珠山 稔 教授 辛島 千恵子 教授 澤田 雄二 教授	SUZUKI, Kunihumi HOSHIYAMA, Minoru KARASHIMA, Chieko SAWADA, Yuji

(2013年5月1日現在)

医療技術科学を学問領域として確立し、その科学・技術・実践技術を教育・研究し、幅広い基礎と高度な専門知識および問題解決能力、人間性豊かな資質を備えた医療

技術者・教育者・研究者を育成することを目指す。

5専攻を有し、基礎から専門まで4年間一貫教育を行う。

## ● 組織

### 看護学専攻

Department of Nursing

入学定員	80名
------	-----

看護学専攻は、「人間・環境・健康・看護」について学習し、科学的な看護実践が推進できる看護師、保健師、助産師及び教育・研究者の育成を目的とする。

### 放射線技術科学専攻

Department of Radiological Technology

入学定員	40名
------	-----

放射線技術科学専攻は、急速に進歩する画像診断・放射線治療の現状に対応できる診療放射線技師を育成するとともに、専門領域の教育・研究者の育成を目的とする。

### 検査技術科学専攻

Department of Medical Technology

入学定員	40名
------	-----

検査技術科学専攻は、最新の検査に関する知識と技術を基礎にした問題解決能力を備えた臨床検査技師を育成するとともに、専門領域の教育・研究者の育成を目的とする。

### 理学療法学専攻

Department of Physical Therapy

入学定員	20名
------	-----

理学療法学専攻は、人の尊厳、障害の予防・回復、チーム医療、理学療法学の基礎構築、など幅広い知識と教養を身につけ、次代の医療・保健・福祉全般に貢献でき指導的役割を担うことができる理学療法士の育成を目的とする。

### 作業療法学専攻

Department of Occupational Therapy

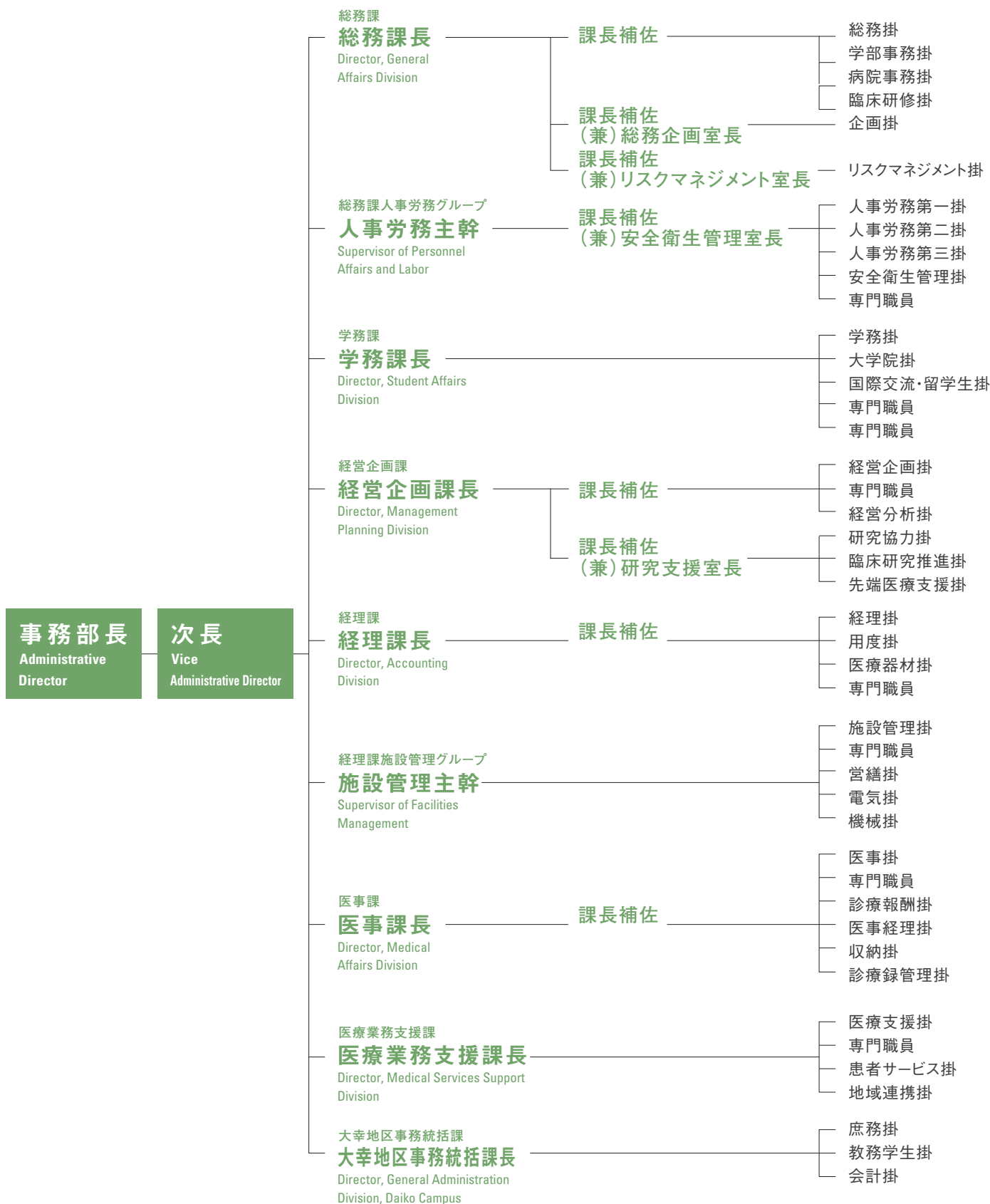
入学定員	20名
------	-----

作業療法学専攻は、生命の倫理に基づき、作業療法対象者を理解し支援できる豊かな人間性をもち、科学的に研究・開発できる学問的要素を身につけ、探究心のある国際人として活動できる人材を養成、またこれらに関連する教育・研究の推進を目的とする。

# データ集

事務部組織図	52
職員数	53
学生定員および現員	54
大学院医学系研究科修了者数	56
医学部卒業生数	57
学位（医学博士）授与者数	57
外国人留学生・外国人研究員等	58
国際交流協定による派遣学生数および受入学生数	59
医学部・医学系研究科からの国別海外留学者数	60
名古屋大学附属図書館医学部分館	61
スキルス& IT ラボラトリーの使用状況	61
解剖体数	61
産学官連携に関するデータ 知的財産／共同研究・受託研究	62
科学研究費補助金の状況	63
ニュースリリース	64
鶴舞公開講座	68

# 事務部組織図



## 名古屋大学附属図書館医学部分館

Nagoya University Medical Library

### 図書館専門員

- 情報管理掛
- 情報サービス掛
- 保健学情報掛  
(大幸地区)

# 職員数

区分		大学院医学系研究科(鶴舞地区)	大学院医学系研究科(大幸地区)
教職員	教授 Professor	51 (9)	37 (1)
	准教授 Associate Professor	54 (13)	18 (1)
	講師 Lecturer	16 (17)	3
	助教 Assistant Professor	36 (58)	24
	助手 Research Associate	1	0
	研究員 Researcher	0 (5)	0
	教務職員 Research Assistant	0	1
小計		158 (102)	83 (2)
教職員	事務系職員 Administrative Staff	157	
計		398 (104)	

[注] ( )は特任教員・寄附講座教員を外数で示す。

(2013年5月1日現在)

# 学生定員および現員

## 大学院医学系研究科

### [博士課程]

		入学定員	現員		
			男	女	合計
分子総合医学専攻 Program in Integrated Molecular Medicine	2年	52	55	15	70
	3年	52	44	19	63
	4年	52	35	21	56
小計		156	134	55	189
細胞情報医学専攻 Program in Integrated Molecular Medicine	2年	43	33	10	43
	3年	43	22	10	32
	4年	43	32	13	45
小計		129	87	33	120
機能構築医学専攻 Program in Cell Information Medicine	2年	39	40	11	51
	3年	39	32	8	40
	4年	39	37	6	43
小計		117	109	25	134
健康社会医学専攻 Program in Function Construction Medicine	2年	27	10	9	19
	3年	27	12	11	23
	4年	27	15	27	42
小計		81	37	47	84
総合医学専攻※ Program in Integrated Medicine	1年	161	161	50	211
小計		161	161	50	211
計		644	528	210	738
大学院研究生		—	12	7	19

※2012年度秋入学者を含む。

(2013年4月1日現在)

### [卒直後コース]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
1年	—	1	0	1
2年	—	1	0	1
3年	—	1	0	1
計	—	3	0	3

(2013年4月1日現在)

### [MD・PhDコース]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
1年	—	0	1	1
計	—	0	1	1

(2013年4月1日現在)

### [博士前期課程]

		入学定員	現員		
			男	女	合計
看護学専攻 Program in Nursing	1年	18	4	14	18
	2年	18	5	14	19
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	1年	20	18	10	28
	2年	20	18	21	39
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	1年	10	11	5	16
	2年	10	12	6	18
計		96	68	70	138

(2013年4月1日現在)



## [ 博士後期課程 ]

		入学定員	現員		
			男	女	合計
看護学専攻 Program in Nursing	1年	6	0	6	6
	2年	6	0	6	6
	3年	6	4	19	23
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	1年	7	7	4	11
	2年	7	4	1	5
	3年	7	3	5	8
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	1年	4	3	2	5
	2年	4	5	0	5
	3年	4	7	2	9
計		51	33	45	78

(2013年4月1日現在)

## [ 修士課程 ]

		入学定員	現員		
			男	女	合計
医科学専攻 Program in Medical Science	1年	20	6	10	16
	2年	20	16	7	23
医科学専攻医療行政コース (Young Leaders' Program (YLP)) Program in Medical Science, Healthcare Administration Course (Young Leaders' Program (YLP))	1年(国費)	10	7	4	11
計		50	29	21	50

(2013年4月1日現在)

## 医学部 [ 医学科 ]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
1年	107	90	21	111
2年	107	83	27	110
3年	112	87	30	117
4年	112	91	17	108
5年	108	86	22	108
6年	100	81	24	105
計	646	518	141	659
研究生等	—	48	15	63

(2013年4月1日現在)

## [ 保健学科 ]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
1年	200	58	151	209
2年	206	61	158	219
3年	226	65	161	226
4年	226	67	173	240
計	858	251	643	894
研究生等	—	1	0	1

(2013年4月1日現在)

# 大学院医学系研究科修了者数

## [博士課程] \*満期退学者は除く。短期修了者を含む。

専攻	修了者数 [平成24年度]
分子総合医学専攻 Program in Integrated Molecular Medicine	14
細胞情報医学専攻 Program in Cell Information Medicine	27
機能構築医学専攻 Program in Function Construction Medicine	12
健康社会医学専攻 Program in Health and Community Medicine	15
計	68

(2013年3月31日現在)

## [博士前期課程] \*短期修了者を含む。

専攻	修了者数 [平成24年度]
看護学専攻 Program in Nursing	17
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	22
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	16
計	55

(2013年3月31日現在)

## [博士後期課程] \*満期退学者は除く。短期修了者を含む。

専攻	修了者数 [平成24年度]
看護学専攻 Program in Nursing	2
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	3
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	4
計	9

(2013年3月31日現在)

## [修士課程]

### ●修了者数

専攻	修了者数 [平成24年度]
医科学専攻 Program in Medical Science	18 (8)

[注] ( )はYoung Leaders' Program (YLP) 修了者を外数で示す。

(2013年3月31日現在)

### ●修了者の進路

進学者	就職			その他
	官庁	民間企業等	医療機関	
9	0	4	4	1 (8)

[注] ( )はYoung Leaders' Program (YLP) 修了者を外数で示す。

(2013年3月31日現在)

# 医学部卒業生数

## [卒業生数]

学校名		期間	卒業生数
愛知医学校	Aichi Medical School	1881(明治14)年10月～1903(明治36)年6月	1,082
愛知県立医学専門学校	Aichi Prefectural Medical College	1903(明治36)年7月～1920(大正12)年6月	1,967
愛知医科大学	Aichi Medical College	1920(大正9)年10月～1931(昭和6)年4月	427
名古屋医科大学	Nagoya Medical College	1931(昭和6)年5月～1939(昭和14)年3月	695
名古屋帝国大学医学部	Nagoya Imperial University School of Medicine	1939(昭和14)年4月～1947(昭和22)年9月	749
名古屋帝国大学附属医学専門部※	Nagoya Imperial University Medical College	1944(昭和19)年4月～1950(昭和25)年3月	744
名古屋大学医学部(旧制)	Nagoya University School of Medicine (Under Old Educational System)	1947(昭和22)年10月～1954(昭和29)年3月	688
名古屋大学医学部	Nagoya University School of Medicine	1949(昭和24)年5月～2012(平成24)年3月	7,723
医学科	School of Medicine		(5,561)
保健学科	School of Health Sciences	2002(平成14)年3月～2012(平成24)年3月	(2,162)
計			14,075

※1947(昭和22)年10月 名古屋大学附属医学専門部と改称

## [2012(平成24)年度の医学部卒業生数]

			卒業生数
名古屋大学医学部	医学科	School of Medicine	109
Nagoya University School of Medicine	保健学科	School of Health Sciences	228
計			337

(2013年3月31日現在)

# 学位(医学博士)授与者数

## [学位授与者数]

区分	学位授与者数	
	平成24年度	累計
課程博士 Graduates of Doctor's Course	129	2,888
論文博士 Doctor's Approved by Thesis	20	3,382
計	149	6,270

[注]「累計」は1960(昭和35)年4月1日以降の学位授与者数

(2013年3月31日現在)

## [旧制学位授与者数]

期間	学位授与者数
自 1926(大正15)年1月23日 至 1960(昭和35)年3月31日	3,709

# 外国人留学生・外国人研究員等

## [外国人留学生数]

身分		国費		私費		合計
		男	女	男	女	
学部学生	Undergraduate Students	0	0	2	4	6
研究生	Research Students	0	0	0	0	0
特別聴講学生	Special Undergraduate Students	0	0	0	0	0
大学院学生	Graduate Students in Doctor's Course	19	14	30	32	95
大学院研究生	Research Students in Doctor's Course	2	0	2	4	8
大学院特別研究学生	Special Graduate Students in Doctor's Course	0	0	0	0	0
特別研究学生	Special Research Students	0	0	0	1	1
日本語・日本文化研修生※	Japanese Studies Students	0	0	0	0	0
計		21	14	34	41	110
外国人研究員等	Visiting Research Fellow, etc.	83				

※日本語・日本文化研修生は、留学生センター所属であるが、研修期間(4月～9月)終了後は、医学系研究科大学院研究生となる。

(2013年5月1日現在)

## [国別外国人留学生数・外国人研究員等数]

国名	外国人留学生(2013年5月1日現在)	外国人研究員等[平成24年度]	
中国	China	65	4
韓国	Korea	2	36
台湾	Taiwan	2	2
インド	India	1	4
インドネシア	Indonesia	1	0
カンボジア	Cambodia	1	0
タイ	Thailand	1	7
ネパール	Nepal	1	0
パキスタン	Pakistan	1	0
バングラデシュ	Bangladesh	16	1
ベトナム	Vietnam	0	2
マレーシア	Malaysia	2	0
ミャンマー	Myanmar	1	0
モンゴル	Mongolia	1	0
ラオス	Laos	1	0
アフガニスタン	Afghanistan	2	0
イスラエル	Israel	0	1
イラク	Iraq	0	3
イラン	Iran	0	1
エジプト	Egypt	3	1
エチオピア	Ethiopia	1	0
パラオ	Palau	0	2
アメリカ合衆国	U.S.A.	0	2
カナダ	Canada	0	1
ブラジル	Brazil	0	1
ペルー	Peru	1	0
アイルランド	Ireland	0	1
イギリス	UK	0	2
イタリア	Italy	1	1
ウズベキスタン	Uzbekistan	1	0
オーストリア	Austria	0	1
ギリシャ	Greece	1	0
キルギス	Kirghiz	1	0
スイス	Poland	0	1
スペイン	Spain	0	1
ドイツ	Germany	2	2
フランス	France	0	2
ブルガリア	Bulgaria	0	1
ベルギー	Belgium	0	1
ルーマニア	Romania	1	0
ロシア	Russia	0	2
合計	110	83	

# 国際交流協定による派遣学生数および受入学生数

	国名	大学名	締結年月日	派遣学生数	受入学生数
協定校 Main Sister University	アメリカ合衆国 (7機関) USA	ノースカロライナ大学チャペルヒル校医学部 The University of North Carolina, School of Medicine at Chapel Hill	1989年7月3日	0	0
		ハーバード大学医学部 Harvard University Medical School	1995年11月28日	0	0
		チューレン大学医学部 Tulane University, School of Medicine	1995年11月29日	2	3
		ペンシルベニア大学医学部 University of Pennsylvania, School of Medicine	1997年3月26日	0	0
		デューク大学医学部 Duke University, School of Medicine	2002年12月20日	2	0
		ジョンズホプキンス大学医学部 Johns Hopkins University, School of Medicine	2003年1月1日	2	0
		テキサス大学医学部 The University of Texas, School of Medicine	2007年8月8日	0	0
	ポーランド (1機関) Poland	グダニスク医科系大学医学部 Medical University of Gdanisk	1995年7月31日	2	0
	ドイツ (1機関) Germany	フライブルグ大学医学部 Albert-Ludwigs-University Freiburg, School of Medicine	2000年4月5日	2	0
	イギリス (1機関) UK	ウォーリック大学医学部 Warwick University, Medical School	2005年7月22日	1	0
	オーストリア (1機関) Austria	ウィーン医科大学 The Medical University of Vienna	2005年7月12日	2	2
	モンゴル (1機関) Mongolia	モンゴル健康科学大学 Health Sciences University of Mongolia	2004年8月26日	0	0
	中国 (2機関) China	上海交通大学 Shanghai Jiao Tong University	2009年12月1日	2	2
		北京大学医学部 Peking University Health Science Center	2010年11月10日	0	2
	台湾 (1機関) Taiwan	国立台湾大学医学部 National Taiwan University College of Medicine	2011年6月17日	0	2
	韓国 (1機関) Korea	延世大学校原州医科大学 Yonsei University Wonju College of Medicine	2012年3月29日	12	27
	ベトナム (1機関) Vietnam	フエ医科薬科大学 Hue University of Medicine and Pharmacy	2012年10月29日	0	0
その他 Out of Main Sister University	北アメリカ North America			9	0
	南アメリカ South America			0	0
	ヨーロッパ Europe			6	0
	アジア Asia			16	0
	オセアニア Oceania			10	0
	アフリカ Africa			0	0
計				68	38

(2012[平成24]年度)

# 医学部・医学系研究科からの国別海外留学者数

国名	州	留学者数
アフガニスタン	Afghanistan	1
アメリカ合衆国	ケンタッキー	1
	ノースカロライナ	3
	ペンシルバニア	1
	マサチューセッツ	1
	メリーランド	4
	ルイジアナ	2
イギリス	UK	4
オーストラリア	Australia	10
オーストリア	Austria	2
カナダ	Canada	3
タイ	Thailand	5
ドイツ	Germany	4
バングラデシュ	Bangladesh	1
ポーランド	Poland	2
マルタ	Malta	1
韓国	Korea	16
中国	China	7
計		68

[注] 派遣学生を含む。

(2012[平成24]年度)

# 名古屋大学附属図書館医学部分館 (保健学図書室を含む)

## [蔵書数]

	蔵書数		
	医学部分館	保健学図書館	計
和書 Japanese Books	67,083	38,650	105,733
洋書 Foreign Books	87,894	7,049	94,943
計	154,977	45,699	200,676

(2013年4月1日現在)

## [雑誌種類数]

	種類数		
	医学部分館	保健学図書館	計
和雑誌 Japanese Journals	1,864	853	2,717
洋雑誌 Foreign Journals	2,399	174	2,573
計	4,263	1,027	5,290

(2013年4月1日現在)

## [オープンアクセス・ジャーナル] (2月、8月web公開)

### Nagoya Journal of Medical Science

▶ [http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/nagoya\\_j\\_med\\_sci/](http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/nagoya_j_med_sci/)

# スキルス&ITラボラトリーの使用状況

## [各部屋の使用状況]

部屋名	使用件数[平成24年度]
スキルスラボ	494
診察シミュレーション室	859
顕微鏡ラボ	198
画像診断ラボ	92
超音波ラボ	15
計	1,658

## [所属ごとの使用状況]

所属名	使用件数[平成24年度]
医学科	906
保健学科	82
大学院	118
総合医学教育センター	19
病院	473
その他	60
計	1,658

# 解剖体数

年度	系統解剖体 (献体数)	病理解剖体
2005(平成17)年度	39	36
2006(平成18)年度	49	42
2007(平成19)年度	52	33
2008(平成20)年度	45	38
2009(平成21)年度	64	32
2010(平成22)年度	49	29
2011(平成23)年度	42	24
2012(平成24)年度	57	39

# 産学官連携に関するデータ 知的財産/共同研究・受託研究

名古屋大学では2004年の大学法人化以降、大学で創出された知的財産を、研究者個人ではなく大学組織全体で保有し、より効率的な活用につなげるよう努めている。大学院医学系研究科も全学の方針にそって、知的財産

を広く社会で役立つシーズとして発信し、組織の総合力をもって活用に取り組んでいる。また、企業との連携も研究者個人の活動から、大学としての組織的な活動へと変化し総合的に推進されている。

## [特許]

### ● 特許一覧（登録／大学院医学系研究科・医学部附属病院／国内単独）

発明の名称	登録日	登録番号	発明者
肉眼で見やすい細胞診マーカー	1997/3/11	2615427	吉田 泰彦
ミッドカインの受容体、 ミッドカイン依存性の細胞生存を抑制する方法 およびミッドカイン依存性の細胞生存を促進する方法	2005/7/8	3694731	村松 喬/村松 壽子
四肢用陽圧チャンバー	2009/1/9	4243647	平田 仁 他
皮膚組織改善材およびその製造方法	2009/1/23	4247333	蛭沢 克己/加藤 竜司/ 各務 秀明/上田 実
創外固定器	2009/5/15	4304321	平田 仁/建部 将広/篠原 孝明
急性腎障害及び予後推定用バイオマーカー並びにその用途	2009/12/18	4423375	門松 健治/湯沢 由紀夫/ 林 宏樹/松尾 清一 他
siRNA を用いたヒト血管内皮増殖因子の発現の強い抑制。	2010/3/26	4480125	武井 佳史/門松 健治/村松 喬
光干渉断層装置	2010/4/30	4501007	伊藤 逸毅
保存細胞管理システム	2010/6/11	4528584	各務 秀明/上田 実 他
機械受容（Stretch Activated）チャンネルの活性化抑制剤	2011/1/7	4654432	成瀬 恵治/曾我部 正博
細胞組織磁気信号検出装置	2011/1/21	4665105	中山 晋介/内山 剛 他
IgA 腎症関連抗体の検出法	2011/3/18	4701391	鳥居 啓三/太田 美智男/岡本 陽
培養スケジュール管理装置及び 培養スケジュール管理プログラム	2011/7/29	4787964	加藤 竜司/各務 秀明/ 上田 実/蛭沢 克己
癌転移抑制用組成物	2011/8/12	4797159	高橋 隆/柳澤 聖
ヒト歯髄細胞からの象牙質再生方法	2011/12/16	4884678	各務 秀明/上田 実 他
神経障害の予防又は治療剤	2012/2/24	4929446	門松 健治/張 皓倩/ 村松 喬/内村 健治
脂肪組織由来間葉系幹細胞を含有する、 勃起不全又は尿意障害用の細胞製剤	2012/3/23	4953335	山本 徳則/後藤 百万/小出 直史/ 武井 佳史/松川 宣久/舟橋 康人
抗ポリグルタミン病剤	2012/3/30	4956737	祖父江 元/足立 弘明/和座 雅浩
組織形成用複合材料およびその製造方法	2012/4/27	4977854	上田 実/水野 裕和/各務 秀明/ 岡田 邦彦/宇佐見 一公
再生医療骨組成物	2012/5/11	4982841	上田 実/山田 陽一/伊藤 憲治/ 吉見 涼子
皮膚組織改善材及びその利用	2012/5/11	4982865	蛭沢 克己/上田 実/各務 秀明/ 岡田 邦彦/加藤 竜司/マズリザム アブドゥル ラティフ
移植材料及び骨質改善剤	2012/6/1	5002816	上田 実/山田 陽一/八島 明弘/ 高後 友之
脂肪組織由来間葉系幹細胞を含有する、前立腺癌治療用細胞製剤	2012/7/13	5035737	山本 徳則/小出 直史/武井 佳史/ 後藤 百万
アクチン結合タンパク質の細胞運動関連疾患への利用	2012/8/3	5051600	高橋 雅英/榎本 篤/室原 豊明
ヒト悪性卵巣胚細胞腫瘍の細胞株の樹立方法、ヒト悪性卵巣胚細胞腫瘍細胞株、及びその利用	2012/10/5	5098013	吉川 史隆/柴田 清住
アクチン結合タンパク質の細胞運動関連疾患への利用	2012/10/5	5098027	高橋 雅英/榎本 篤/室原 豊明
肝癌治療又は予防用医薬組成物	2012/10/12	5103608	中尾 昭公/榎間 勝利
エレクトロポレーション装置の制御方法	2013/1/18	5176104	武井 佳史/藤島 達也/村松 喬/ 門松 健治
腹腔内腫瘍病変の治療又は予防用の医薬組成物	2013/2/1	5187676	那波 明宏/鎌倉 真紀/吉川 史隆/ 西山 幸廣
ウイルス検出用オリゴヌクレオチドセット、EBV、CMV 及びHHV-6の分析方法及び検出キット	2013/3/1	5205609	木村 宏/西山 幸廣/和田 かおる/ 久保田 直美



● 特許等件数（登録）

区分	国内		外国		合計
	単独	共同	単独	共同	
大学院医学系研究科	24	18	6	4	52
医学部附属病院	6	6	0	1	13
計	30	24	6	5	65

(2013年4月1日現在)

[共同研究]

● 民間等との共同研究実施件数および受入金額

年度	医学科		保健学科	
	件数	受入金額（千円）	件数	受入金額（千円）
平成 19 年度	34	67,369	8	13,067
平成 20 年度	38	74,205	12	14,764
平成 21 年度	43	74,653	5	3,023
平成 22 年度	38	76,357	12	5,433
平成 23 年度	41	73,288	11	7,569
平成 24 年度	40	117,904	12	13,211

※研究員料・産学連携費(間接経費)を含む

[受託研究]

● 受託研究経費（政府出資資金を含む）受入件数および受入金額

年度	医学科		保健学科	
	件数	受入金額（千円）	件数	受入金額（千円）
平成 19 年度	40	268,700	4	6,006
平成 20 年度	38	376,149	5	3,680
平成 21 年度	65	514,376	10	4,240
平成 22 年度	68	416,558	7	11,769
平成 23 年度	69	811,457	11	23,568
平成 24 年度	76	747,212	14	27,699

※間接経費を含む

共同研究・受託研究について詳しくは

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/1916/1917/index.html>

〈問い合わせ先等・担当事務〉

医学部・医学系研究科／事務部経営企画課研究協力掛

TEL：052-744-2429 FAX：052-744-2881

E-mail：iga-kenkyu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

# 科学研究費補助金の状況

[平成24年度外部資金の状況]

研究種目	件数	金額(千円)	研究種目	件数	金額(千円)
新学術領域研究（研究領域提案型）	36	586,142	若手研究（A）	3	23,660
基盤研究（S）	3	62,320	若手研究（B）	8	7,020
基盤研究（A）	17	101,670	若手研究（B）（学術研究助成基金助成金）	77	136,630
基盤研究（B）	64	265,410	研究活動スタート支援	5	7,410
基盤研究（C）	44	39,235	奨励研究	4	2,300
基盤研究（C）（学術研究助成基金助成金）	126	176,635	特別研究員奨励費	9	7,600
挑戦的萌芽研究	1	300	合計	442	1,483,852
挑戦的萌芽研究（学術研究助成基金助成金）	45	67,520			

\*間接経費、研究分担者による受入件数・金額を含む

# ニュースリリース

名古屋大学大学院医学系研究科では、最新の研究成果の中から特に社会的影響力が強いと考えるものを選

び、ニュースソースとして各メディアに報告している。期間内では、以下の21件をリリースした。

## 【一覧】

日付	研究内容	主たる研究者〈所属〉※
2012年5月7日	急性心筋梗塞に効果のある脂肪由来の善玉ホルモンを発見	大内乗有教授〈分子循環器学（興和）寄附講座〉 神原貴博（大学院生）、室原豊明教授〈循環器内科学〉
2012年5月30日	がんの広がり（浸潤や転移）や傷の回復において細胞の移動をもたらす分子メカニズムを解明	高岸麻紀研究員、高橋雅英教授〈腫瘍病理学〉
2012年5月31日	マイクロRNAによる神経変性疾患の新規治療法を開発 ～病態を抑制する根治療法の確立に向けて～	祖父江元教授、宮崎雄（大学院生）〈神経内科学〉 ※自治医科大学との共同研究
2012年6月12日	新たな遺伝性血栓症の原因を発見	宮脇由理（大学院生）、高木明助教、小嶋哲人教授〈医療技術学専攻〉 松下正教授〈附属病院輸血部〉
2012年6月13日	血中のEBウイルスDNA量は、NK細胞リンパ腫に対するSMILE療法の治療効果や有害事象の予測に有用	鈴木律朗准教授〈造血細胞移植情報管理・生物統計学（日本造血細胞移植学会）寄附講座〉 木村宏准教授〈ウイルス学〉
2012年6月28日	幹細胞由来のサイトカインを用いた骨の再生医療 ～細胞移植を行わず骨の再生に成功～	上田実教授、片桐渉助教、大杉将嗣（大学院生）〈顎顔面外科学〉
2012年7月23日	皮下脂肪組織由来の再生細胞を用いてリンパ管再生誘導に成功。マウスでリンパ浮腫改善作用を示す	室原豊明教授、清水優樹（大学院生）〈循環器内科学〉
2012年7月27日	アスベストによる中皮腫発がん機構の解明～予防法開発への期待～	豊國伸哉教授、蔣麗研究員〈生体反応病理学〉
2012年8月30日	鉄過剰による動物発がんモデルではヒトのがんによく似た染色体変化を起こす	赤塚慎也助教、豊國伸哉教授〈生体反応病理学〉
2012年9月5日	心臓から産生されるホルモンの急性心筋梗塞に対する効果を発見。大型動物において効果を確認	大内乗有教授〈分子循環器学（興和）寄附講座〉 室原豊明教授、小椋康弘客員研究員〈循環器内科学〉
2012年10月1日	頭痛薬ナラトリプタンはCGRP-1の発現抑制を介してポリグルタミン関連運動神経変性を抑制する	祖父江元教授、勝野雅史特任准教授、南山誠元研究員〈神経内科学〉 ※東京大学との共同研究
2012年10月10日	糖尿病合併症としての心不全とその新たなメカニズムの解明	坂東泰子講師、室原豊明教授〈循環器内科学〉
2012年10月16日	高分解能小動物用PET/MRI一体型撮像装置開発に成功 ～創薬などの分子イメージング研究への応用に期待～	山本誠一教授、加藤克彦教授〈医療技術学専攻〉 大阪大学・Neomaxエンジニアリング(株)との共同研究
2012年10月29日	老化マウスから作製したiPS細胞由来神経堤様細胞移植は糖尿病性神経障害を改善する	磯部健一教授〈分子細胞免疫学〉 中村二郎元准教授、大磯ユタカ教授〈糖尿病・内分泌内科学〉
2012年11月29日	幹細胞培養液を用いた歯周病の再生治療 ～細胞移植を行わず歯周組織の再生に成功 名大病院などで臨床研究開始～	上田実教授、片桐渉助教、犬飼文晴（大学院生）〈顎顔面外科学〉
2013年1月15日	思春期のストレスは神経エピジェネティクス機構の障害を引き起こし、成体の行動パターン・神経系を障害する	尾崎紀夫教授、松本友里恵（大学院生）〈精神医学〉 ※名城大学、京都大学、米大学との共同研究
2013年1月25日	熱ショック因子1（HSF-1）は球脊髄性筋萎縮症の病変分布決定に影響を与える	祖父江元教授、勝野雅史准教授、近藤直英研究員〈神経内科学〉 ※山口大学との共同研究
2013年2月27日	プラズマにより体液、組織液、培養液を抗がん剤に ～プラズマ照射溶液による抗腫瘍効果の新たな細胞内分子機構を解明～	水野正明病院教授（附属病院先端医療・臨床研究支援センター） 吉川史隆教授（産婦人科学） ※工学研究科プラズマナノ工学研究センター、NUエコ・エンジニアリング株式会社との医工連携における共同研究
2013年3月5日	LPS受容体であるTLR-MD-2複合体の内因性リガンド、グロボテトラオシルセラミドは、その受容体機能をマイナスに制御する	近藤裕史 COE 特任助教、古川銅一教授〈分子細胞化学〉
2013年3月13日	「知の拠点」重点研究プロジェクトにおいて、呼吸による胸の動きを計測できる衣服を開発	川部勤教授〈医療技術学専攻〉 ※「知の拠点あいち」の「超早期診断技術開発プロジェクト」における共同研究開発
2013年3月18日	低血清培養脂肪由来間葉系幹細胞は免疫調整型マクロファージを誘導して半月体形成性系球体腎炎を軽減する	古橋和拡（元大学院生）、丸山彰一准教授、坪井直毅講師〈腎臓内科学〉

※ニュースリリース時の職名・所属を記載

## [解説]

### 急性心筋梗塞に効果のある脂肪由来の善玉ホルモンを発見

肥満は虚血性心疾患、特に、心筋梗塞の危険因子であり、脂肪由来ホルモンがその病態に関係している。この脂肪由来ホルモンのうち、CTRP9に着目し、動物の急性心筋梗塞モデルにおいて、心筋保護作用を有することを明らかにした。CTRP9は抗アポトーシス作用を有し、急性心筋傷害を抑制する脂肪由来の善玉ホルモンであることを明らかにし、急性心筋梗塞の治療法開発の標的分子になりうることを示唆された。

掲載誌 The Journal of Biological Chemistry

### マイクロRNA による神経変性疾患の新規治療法を開発～病態を抑制する根治療法の確立に向けて～

神経変性疾患の一つである球脊髄性筋萎縮症において、マイクロRNAとよばれるリボ核酸と、アデノ随伴ウイルスベクターを用いた、全く新しい視点により病態を抑制出来る治療法を開発。また、これと同様の仕組みがヒトの病態にも存在することを示した。この神経変性疾患に対するマイクロRNA治療の応用は世界に先駆けたものであり、他の神経変性疾患への応用と臨床現場での活用が期待できる。

掲載誌 Nature Medicine

### 血中のEBウイルスDNA量は、NK細胞リンパ腫に対するSMILE療法の治療効果や有害事象の予測に有用

NK細胞リンパ腫では、末梢血中に腫瘍から放出されたEBウイルスのDNAが存在しており、血液中のEBウイルスDNA量がNK細胞リンパ腫に対する抗がん剤治療後の治療効果や有害事象の発生予測に有効であることを明らかにした。SMILE療法の臨床試験の参加者を対象にEBウイルスDNA量について解析したところ、治療効果を予測できるばかりでなく、有害事象の発生の予測も可能になった。

掲載誌 Clinical Cancer Research

### 皮下脂肪組織由来の再生細胞を用いてリンパ管再生誘導に成功。マウスでリンパ浮腫改善作用示す

再生医療において新たな移植幹細胞として期待されている、「脂肪組織由来幹細胞(ADRC)」をリンパ浮腫組織に移植すると、ADRCが傷害組織において成長因子の産生を促すことにより、リンパ管の再生を促進させ、さらにはリンパ浮腫の改善につながることを証明した。現在根本治療のないリンパ浮腫に対して、細胞移植によるリンパ管の再生医療が新規の治療となりうる可能性が示唆された。

掲載誌 Journal of the American Heart Association

### がんの広がり(浸潤や転移)や傷の回復において細胞の移動をもたらす分子メカニズムを解明

がんの広がり(浸潤や転移)を引き起こすNon-canonical Wntシグナルの分子メカニズムを解明し、DapleがNon-canonical Wntシグナルによる細胞集団の移動を調節していることを示した。さらに、Dapleによるこのシグナルの制御が皮膚の傷の回復に重要であることを発見した。この分子メカニズムの解明により、傷の治癒以外にも、がんの浸潤や転移を抑える新しい治療法の開発につながることを期待できる。

掲載誌 Nature Communications

### 新たな遺伝性血栓症の原因を発見

静脈血栓症の遺伝的リスクとなる未知の血栓性素因を解析し、通常は出血し易くなる血液凝固因子(プロトロンビン)の異常が逆に血栓症の原因となることを発見した。血栓性素因の病態解明は、高齢化に伴い日本人でも増加傾向にある静脈血栓症や脳梗塞、心筋梗塞などの血栓性疾患において、新しい治療法や予防法の開発につながることを期待できる。

掲載誌 New England Journal of Medicine

### 幹細胞由来のサイトカインを用いた骨の再生医療～細胞移植を行わず骨の再生に成功～

幹細胞の移植においては細胞の癌化のリスク等が普及の妨げとなっていた。本研究では、幹細胞を移植することなく、その培養上清を用いて骨再生を行うことに世界で初めて成功し、幹細胞の培養上清に含まれるサイトカインのみを移植することで細胞移植と同等の骨が再生することを発見した。既存の骨補填剤と併用も可能で、併用することにより骨再生が期待できる。

掲載誌 Tissue Engineering Part A

### アスベストによる中皮腫発がん機構の解明～予防法開発への期待～

商業的に使用されたすべてのアスベスト繊維(石綿)による中皮腫発がん過程において、鉄過剰病態が重要であることを明らかにした。過剰鉄を制御することが発がん予防となる可能性があり、これにより、すでにアスベストに曝露されたひとへの予防法の開発が期待できる。

掲載誌 The Journal of Pathology

## [解説]

### 鉄過剰による動物発がんモデルではヒトのがんに よく似た染色体変化を起こす

鉄は生体内で過剰になると、活性酸素を生じる化学反応を引き起こして細胞に酸化ストレス傷害を与えるが、酸化ストレスによる動物発がんモデルにおいて、ヒトのがんと同様の染色体変化が再現されることを見出した。鉄を介した酸化ストレスが人間の一般的ながんの普遍的な原因因子である可能性が示唆された。

掲載誌 PLoS ONE

### 頭痛薬ナラトリプタンはCGRP-1の発現抑制を介して ポリグルタミン関連運動神経変性を抑止する

神経変性疾患の一つである球脊髄性筋萎縮症において、片頭痛薬の治療薬であるナラトリプタンが、病気に深く関与するCGRP1の発現抑制を介して、ポリグルタミン関連運動神経変性を抑制することを明らかにし、その病態メカニズムの解明と、治療法を開発した。今まで、神経変性疾患においては有効な治療法が見出されていないため、今後、他の神経変性疾患への応用と臨床現場での活用が期待できる。

掲載誌 Nature Medicine

### 高分解能小動物用PET/MRI一体型撮像装置開発に成功 ～創薬などの分子イメージング研究への応用に期待～

Neomaxエンジニアリング(株)と共同で、陽電子放射型断層画像(PET)と磁気共鳴画像(MRI)が同時に撮像可能な、高分解能小動物用PET/MRI一体型撮像装置の開発に成功した。この装置はコントラストの高いMRI画像とポジロン核種の分布を同位置かつ同時に得られる。今後、小動物を用いた創薬等のための分子イメージング研究への活用が期待でき、また、世界初の小動物用PET/MRI一体型装置としての商品化も期待できる。

掲載誌 Medical Physics

### 幹細胞培養液を用いた歯周病の再生治療 ～細胞移植を行わず歯周組織の再生に成功 名大病院などで臨床研究開始～

幹細胞の移植においては細胞の癌化のリスクやコスト、様々な規制が普及の妨げとなっていた。本研究では、幹細胞を移植することなく、その培養上清を用いて歯周組織の再生を行うことに世界で初めて成功し、幹細胞から分泌されるサイトカインなど「再生因子」が体内にある幹細胞を誘導して歯周組織が再生されることを発見した。再生因子を製剤化することも可能で、歯周病治療のための創薬の期待ができる。

掲載誌 Biochemical and Biophysical Research Communications

### 心臓から産生されるホルモンの急性心筋梗塞に対する 効果を発見。大型動物において効果を確認。

心臓が産生する FSTL1というホルモンに着目し、小動物・大動物の急性心筋梗塞モデルにおいて、心筋虚血前にヒトFSTL1を全身投与した結果、心筋梗塞サイズの縮小と心機能回復を認め、ヒトFSTL1が心臓保護効果を有することを明らかにした。急性心筋梗塞時のFSTL1投与は、心臓保護効果を有すると考えられ、急性心筋梗塞の治療薬開発の標的になりうる可能性が示唆された。

掲載誌 Circulation

### 糖尿病合併症としての心不全とその新たなメカニズム の解明

糖尿病合併症として認められる心臓拡張機能不全(心拡張不全)において、心臓毛細血管に発現するセリンプロテアーゼDPP4の活性異常が原因の一つであることを解明し、糖尿病治療薬であるDPP4阻害剤が、糖尿病性心臓毛細血管不全に対する改善作用を介して、心拡張不全を改善することを、動物モデルにおいて明らかにした。このことで、心臓毛細血管不全への治療介入が、心拡張不全の治療として有効である可能性が示唆された。

掲載誌 Circulation

### 老化マウスから作製したiPS細胞由来神経堤様細胞移植は 糖尿病性神経障害を改善する

老化マウス由来iPS細胞から誘導した神経堤様細胞(NCL細胞)移植が、糖尿病性多発神経障害(DPN)に有効であることを突き止めた。いまだ有効な治療法が存在しない進行したDPNに対し、iPS細胞を利用した再生医療に応用できる可能性を示しているとともに、高齢者から採取したiPS細胞でも、糖尿病合併症に対する再生医療への応用に使用可能であることが示唆された。

掲載誌 Cell Transplantation

### 思春期のストレスは神経エピジェネティクス機構の 障害を引き起こし、成体の行動パターン・神経系を障害する

遺伝要因と成長期の環境要因との相互関係が成長後に影響を与えるメカニズムについて、ストレスホルモンの上昇を介して、脳内ドパミン神経系に持続的なエピジェネティックな変化が起こり、この変化が成長後の行動に影響することを解明した。今後、精神疾患の発症する仕組みの研究の進展や発症を抑える予防方法、治療薬の開発等、精神疾患対策に繋がること期待できる。

掲載誌 Science

## [解説]

### 熱ショック因子1 (HSF-1) は球脊髄性筋萎縮症の病変分布決定に影響を与える

神経変性疾患において病変部位選択性という特徴があるが、その分子メカニズムは不明であった。本研究では、熱ショック因子1 (HSF-1)が、神経変性疾患の病変分布決定に影響していることを見出し、神経変性疾患のひとつである球脊髄性筋萎縮症の病変部位選択性のメカニズムの一端を解明した。今後、他の神経疾患でのさらなる研究と、将来的な臨床応用が期待できる。

掲載誌 Nature Communications

### LPS受容体であるTLR-MD-2複合体の内因性リガンド、グロボテトラオシルセラミドは、その受容体機能をマイナスに制御する

グラム陰性桿菌の菌体を構成するリポ多糖(LPS)は、おもに血管内皮細胞に作用して致死的な傷害作用を示すが、グロボ系スフィンゴ糖脂質であるグロボテトラオシルセラミド(Gb4)がLPS受容体であるTLR4-MD-2に結合して、LPSの作用を減弱させることを明らかにした。さらに、LPS注入後にGb4を注射することで、エンドキシシキ治療への応用の可能性が示唆された。

掲載誌 Proceeding of the National Academy of Sciences USA

### 低血清培養脂肪由来間葉系幹細胞は免疫調整型マクロファージを誘導して半月体形成性糸球体腎炎を軽減する

低血清培養法という特殊な培養法で得られた脂肪由来幹細胞(LASC)が、透析に至る可能性の高い急速進行性腎炎に対して格段に治療効果が高いことを動物実験で明らかにし、治療メカニズムのひとつとして、LASCが炎症性マクロファージを減少させ、免疫調整性マクロファージを増やすことを証明した。急速進行性腎炎患者へのLASC投与は、全身性の副作用を軽減しながら、局所において効率的に組織障害を軽減し得ると期待できる。

掲載誌 Journal of the American Society of Nephrology

### ニュースリリースについての詳細は

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/1796/index.html>

### プラズマにより体液、組織液、培養液を抗がん剤に～プラズマ照射溶液による抗腫瘍効果の新たな細胞内分子機構を解明～

文部科学省新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」の枠組みで、独自に開発した非平衡大気圧プラズマ源を用いて、従来の固形がんはもちろんのこと、今まで効果的な治療法がなかったがんの播種(髄腔内播種、腹腔内播種)を治療する可能性のあるテクノロジーを開発した。今後、より詳細な細胞内分子機構が解明され、学理に基づくプラズマ治療への応用が期待できる。

掲載誌 Plasma Medicine Journal

### 「知の拠点」重点研究プロジェクトにおいて、呼吸による胸の動きを計測できる衣服を開発

「知の拠点あいち」重点研究プロジェクトにおける「超早期診断技術開発プロジェクト」の共同研究により、衣服そのものにセンサ機能を持たせた新しい形態の呼吸状態を把握できるシステムを開発した。開発品は、通常の上着と同様に布でできており、日常の活動中における呼吸による胸の動きを計測可能。呼吸機能の管理や運動時のモニタリングなどへの展開が期待できる。

# 鶴舞公開講座

医学部医学科では、2005(平成17)年度から市民向け公開講座として、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマに、鶴舞公開講座を附属病院との共催で年一回開催している。

20代から80代までと幅広い年齢層の市民に参加いただいております。開催を重ねるごとにリピーターとして参加する方

も増えてきている。

毎回、講演を熱心に聴くだけでなく活発な質疑応答が行われるなど、市民の方々の関心が高いことが窺われる。

鶴舞公開講座は、医学部医学科・附属病院と市民との貴重な交流の場となっており、地域連携、社会貢献の機会として重要な役割を果たしている。

## [鶴舞公開講座の歩み]

年度	講座名	開催日	参加者数
2005年(平成17)年度	今が旬、メタボリック症候群ってなに?	12月10日	約100名
2006年(平成18)年度	ここまで来ていたがん治療：少し安心、もっと勉強	10月29日	85名
2007年(平成19)年度	もうすぐ手に届く治療ことはじめ：そんなことができるの!	10月27日	65名
2008年(平成20)年度	高齢化の波を乗り越えろ—君が老いれば、僕も老いる—	10月4日	約130名
2009年(平成21)年度	心も体も健やかに—オイオイ、といわれたいために—	11月21日	約200名

## [2010(平成22)年度の公開講座]

### 食事：もっとも身近な健康法

〈開催日〉2010年11月20日

〈参加者数〉約230名

日本では医療費を含む社会保障給付費が過去最高水準になり、疾病予防の重要性は増している。そうした情勢を受け、健康づくり三要素のひとつである「栄養」、つまり「食事」をテーマとし、3人の講師が講演した。

『食事のとり方で良くも悪くなる生活習慣病』鈴木富夫栄養管理部副部長／『薬と食品の飲み合わせ～そのメカニズムから学ぶ～』矢野亨治薬剤部主任／『高齢者の栄養に係る問題点—特に摂食障害と栄養障害』葛谷雅文准教授



(職名は講演時のもの)

## [2011(平成23)年度の公開講座]

### 体質とは何だろう?

#### 薬効や生活習慣病との係わり合い

〈開催日〉2011年11月19日

〈参加者数〉約180名

人の体質は千差万別であり、体質の違いは「遺伝によるもの」と「環境によるもの」とに分かれ、最近になって科学の進歩により、遺伝的な体質について多くのことが分かってきた。そこで、「遺伝的体質」をキーワードに3人の講師が講演した。

『ここまでわかった遺伝的体質』濱嶋信之教授／『薬剤の効果と遺伝的体質—薬のはたらきをきめる個性とは?』石川和宏薬剤部副薬剤部長／『生活習慣と遺伝的体質—どっちが強い?』濱田洋司寄附講座准教授



## [2012(平成24)年度の公開講座]

### 疾病予防:

#### 健やかな老いのために

〈開催日〉2012年11月17日

〈参加者数〉約150名

長寿社会における高齢者の疾病やがんなどの身近な話題から、開発途上国をはじめとした世界の医療の現状まで、幅広い内容で3人の講師が講演した。

『長寿社会における高齢者の疾病・虚弱予防』葛谷雅文教授／『長寿社会におけるがん予防』濱嶋信之教授／『世界の健康を考える』青山温子教授



# ロケーション

## 鶴舞キャンパス



移動時間

**25分**

(地下鉄・JR使用)

移動時間

**30分**

(地下鉄・JR使用)



## 東山キャンパス

移動時間

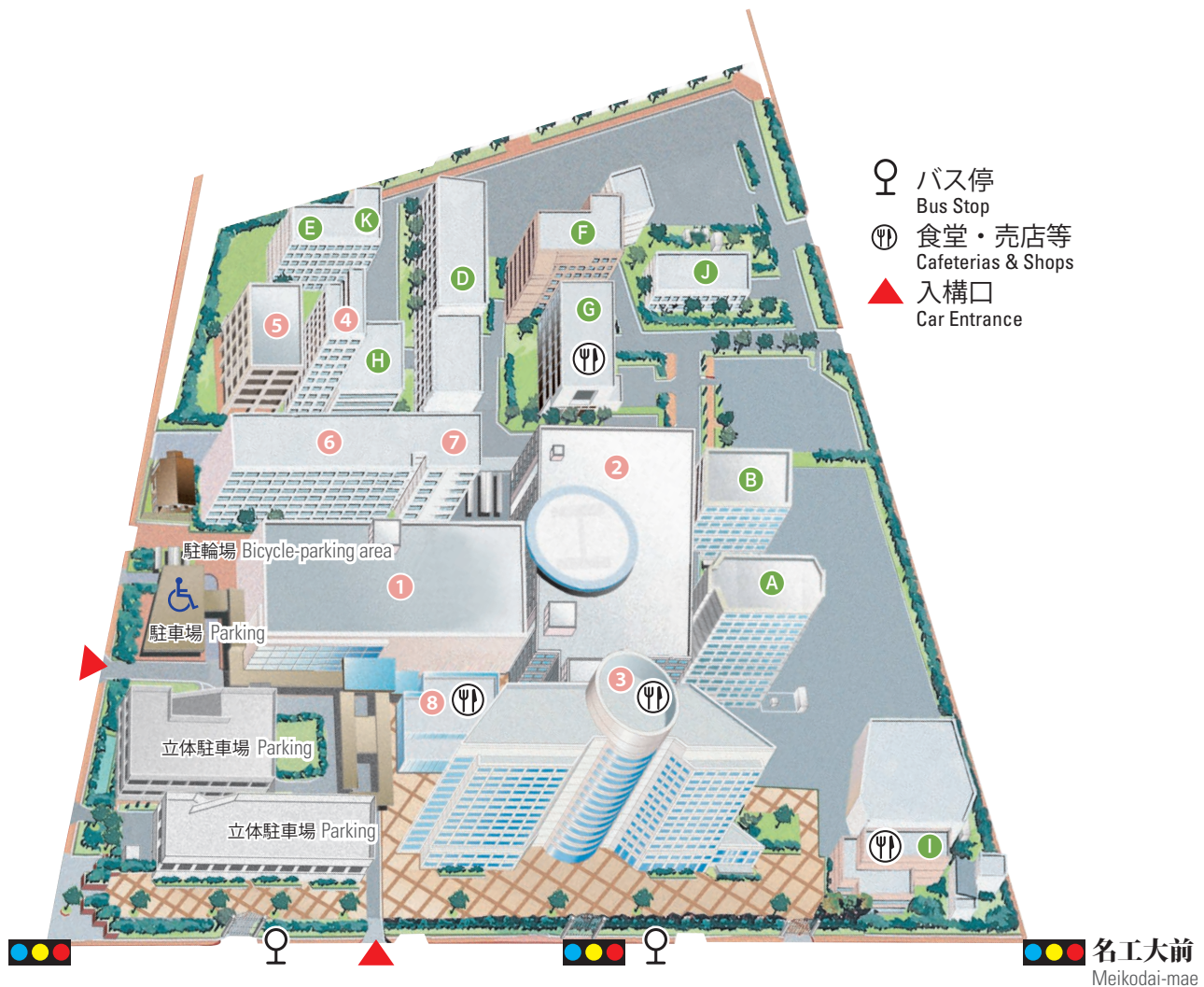
**20分**

(地下鉄使用)



## 大幸キャンパス

# 鶴舞キャンパス配置図



医学部附属病院  
University Hospital

医学部・医学系研究科  
Graduate School of Medicine/School of Medicine

- ① 外来棟  
Outpatient Building
- ② 中央診療棟  
Central Consultation Building
- ③ 病棟  
Ward Building
- ④ 看護師宿舎 A 棟  
Residence for Nurses A
- ⑤ 看護師宿舎 B 棟  
Residence for Nurses B
- ⑥ (旧)西病棟  
Old Ward Building West
- ⑦ (旧)東病棟  
Old Ward Building East
- ⑧ オアシスキューブ(福祉施設)  
Oasis Cube (welfare facility)

- A 医系研究棟1号館  
Medical Science Research Building 1
- B 医系研究棟2号館  
Medical Science Research Building 2
- D 基礎研究棟(講義棟)  
Basic Medical Research Building
- E 基礎研究棟別館  
Basic Medical Research Building Annex
- F 附属医学教育研究支援センター(実験動物部門)  
Center for Promotion of Medical Research and Education (Experimental Animals Division)
- G 附属図書館・学生食堂  
Medical Library / Co-op Cafeteria
- H 福祉施設  
Welfare Facility
- I 鶴友会館  
Kakuyu Kaikan (Alumni Hall)
- J アイソトープ総合センター分館  
Radioisotope Research Center
- K 解剖教育施設保存棟  
Human Anatomy Laboratory

総務課	<span style="color: red;">②</span> 中央診療棟	4F・7F
人事労務グループ	<span style="color: red;">①</span> 外来棟	4F
学務課	<span style="color: green;">D</span> 基礎研究棟(講義棟)	1F
経営企画課	<span style="color: red;">①</span> 外来棟	4F
経理課	<span style="color: red;">①</span> 外来棟	4F

施設管理グループ	<span style="color: red;">①</span> 外来棟	4F
医事課	<span style="color: red;">①</span> 外来棟	1F
医療業務支援課	<span style="color: red;">②</span> 中央診療棟	2F
病歴管理室	<span style="color: red;">①</span> 外来棟	4F

(2013年4月1日現在)



## [大学院医学系研究科・医学部 建物配置案内図] (2013年5月1日現在)

13F	皮膚科／形成外科／小児外科		
12F	整形外科／リウマチ科／耳鼻咽喉科		
11F	眼科／歯科口腔外科		
10F	精神科／脳神経外科		
9F	消化器内科／腎臓内科／神経内科		
8F	放射線科／臨床感染制御学／病態医療学(協力)／化学療法部		
7F	血液内科／循環器内科／臓器病態診断学	国際保健医療学・公衆衛生学／環境労働衛生学／分析機器部門／グローバルCOE推進室	
6F	呼吸器内科／糖尿病・内分泌内科／老年内科	予防医学／生理学第一／生理学第二	
5F	産科婦人科／小児科	免疫学／腫瘍生物学／分子腫瘍学	
4F	泌尿器科／麻酔科	薬理学／細菌学／神経遺伝情報学	第3講義室／第4講義室
3F	消化器外科一／血管外科／心臓外科／呼吸器外科	生化学第一／生化学第二／ウイルス学	代謝病態学寄附講座／移植免疫学寄附講座／腎不全総合治療学寄附講座／生化学第二／循環器内科／第1講義室／第2講義室／ゼミ室
2F	消化器外科二／移植外科／乳腺・内分泌外科／救急・集中治療医学	病理学第一／病理学第二／解剖学第一	分子循環器学(興和)寄附講座／消化器疾患先端研究寄附講座／健康栄養医学／分子病理学／ゼミ室／ラウンジ
1F	総合診療科／薬剤部／コンビニエンスストア	解剖学第二／解剖学第三／法医学／分析機器部門	国際連携室／Young Leaders' Program(YLP)／会議室／更衣室／事務部
B1F	会議室／手の外科		
	医系研究棟1号館	医系研究棟2号館	基礎研究棟(講義棟)

# 大幸キャンパス配置図



- ① 医学部保健学科南館  
School of Health Sciences (South Building)
- ② 医学部保健学科本館  
School of Health Sciences (Main Building)
- ③ 体育館  
Gymnasium
- ④ コバルト棟  
Radioisotope Laboratory
- ⑤ エネルギーセンター  
Energy Center
- ⑥ 厚生会館  
Student Hall
- ⑦ 医学部保健学科別館  
School of Health Sciences (Annex)
- ⑧ 弓道場  
Kyudo (Japanese Archery) Hall
- ⑨ 医学部保健学科東館  
School of Health Sciences (East Building)
- ⑩ リサーチャーズビレッジ大幸  
Researchers Village Daiko
- ⑪ 硬式庭球場  
Tennis Court
- ⑫ 運動場  
Ground

- ♀ バス停  
Bus Stop
- ☺ 食堂・売店等  
Cafeterias & Shops
- ▲ 入構口  
Car Entrance
- ▲ 自転車専用入構口  
歩行者  
Entrance

# 土地及び建物

## 鶴舞キャンパス

面積(土地) 89,137m<sup>2</sup>

位置 名古屋市昭和区鶴舞町65番地

建物 [建面積] 35,252m<sup>2</sup> [延面積] 202,139m<sup>2</sup>

名称	構造	建面積(m <sup>2</sup> )	延面積(m <sup>2</sup> )	
① 外来棟	Outpatient Building	RC4	5,309	19,446
② 中央診療棟	Central Consultation Building	SRC7-2	5,881	43,612
③ 病棟	Ward Building	S14-2	4,721	52,297
④ 看護師宿舎A棟	Residence for Nurses A	SRC10	675	6,158
⑤ 看護師宿舎B棟	Residence for Nurses B	RC6	563	2,741
⑥ (旧)西病棟	Old Ward Building West	RC6-1	1,584	14,525
⑦ (旧)東病棟	Old Ward Building East	《(旧)西病棟に含む》		
⑧ オアシスクューブ(福利施設)	Oasis Cube (Welfare Facility)	S1	604	595
⑨ 医系研究棟1号館	Medical Science Research Building 1	S13-2	1,493	20,875
⑩ 医系研究棟2号館	Medical Science Research Building 2	RC7	1,515	10,300
⑪ 基礎研究棟(講義棟)	Basic Medical Research Building	RC4-1	1,651	6,585
⑫ 基礎研究棟別館	Basic Medical Research Building Annex	RC5	695	3,158
⑬ 附属医学教育研究支援センター(実験動物部門)	Center for Promotion of Medical Research and Education (Experimental Animals Division)	RC7-1	889	6,488
⑭ 附属図書館・学生食堂	Medical Library / Co-op Cafeteria	RC4-1	974	3,138
⑮ 福利施設	Welfare Facility	RC3	308	760
⑯ 鶴友会館	Kakuyu Kaikan (Alumni Hall)	RC3	550	1,354
⑰ アイソトープ総合センター分館	Radioisotope Research Center	RC4・RC2	695	1,803
⑱ 解剖教育施設保存棟	Human Anatomy Laboratory	RC1	301	301
その他	Others		6,844	8,003
計			35,252	202,139

(2013年4月1日現在)

## 大幸キャンパス

面積(土地) 48,463m<sup>2</sup>

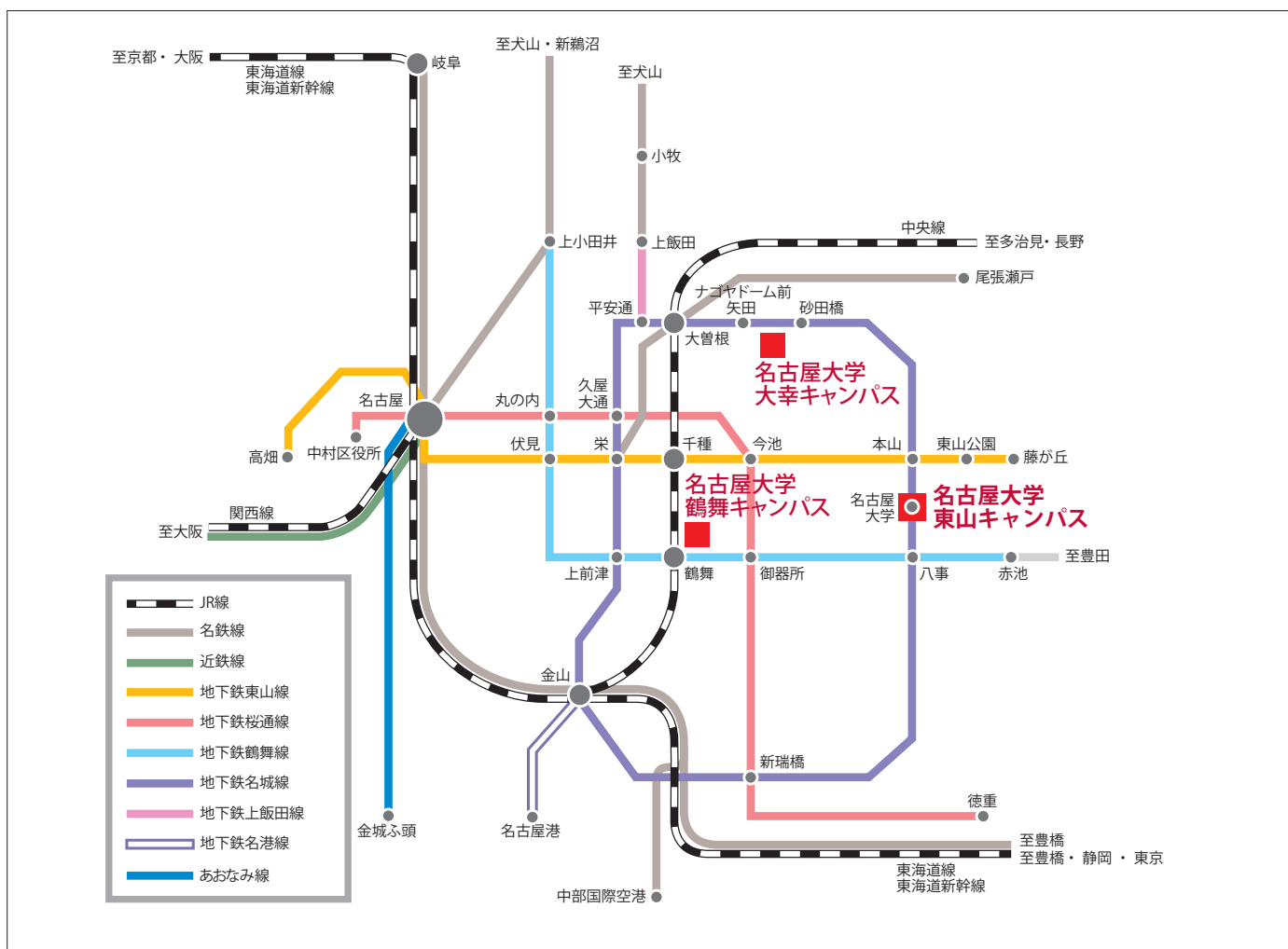
位置 名古屋市東区大幸南1丁目1-20

建物 [建面積] 10,470m<sup>2</sup> [延面積] 28,429m<sup>2</sup>

名称	構造	建面積(m <sup>2</sup> )	延面積(m <sup>2</sup> )	
① 医学部保健学科南館	School of Health Sciences (South Building)	RC4	3,021	8,067
② 医学部保健学科本館	School of Health Sciences (Main Building)	RC5	1,414	5,835
③ 体育館	Gymnasium	SRC1	1,369	1,369
④ コバルト棟	Radioisotope Laboratory	RC1	353	353
⑤ エネルギーセンター	Energy Center	RC2	606	894
⑥ 厚生会館	Student Hall	RC2	678	1,338
⑦ 医学部保健学科別館	School of Health Sciences (Annex)	RC4	579	2,431
⑧ 弓道場	Kyudo (Japanese Archery) Hall		88	88
⑨ 医学部保健学科東館	School of Health Sciences (East Building)	RC4	843	3,331
⑩ リサーチャーズビレッジ大幸	Researchers Village DAIKO	RC3	280	720
⑪ 硬式庭球場	Tennis Court		—	—
⑫ 運動場	Ground		—	—
その他	Others		1,239	4,003
計			10,470	28,429

(2013年4月1日現在)

# 交通案内



## 鶴舞キャンパス [交通]

- JR中央本線「鶴舞駅」(名大病院口側)下車徒歩3分。
- 地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」下車徒歩8分。
- 市バス「栄」から栄⑱系統「妙見町」行きで「名大病院」下車。

## 大幸キャンパス [交通]

- JR中央本線「大曽根駅」(北口)下車徒歩15分。
- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田駅」下車徒歩10分。又は、「砂田橋駅」下車徒歩7分。
- 市バス「名古屋駅」「大曽根」から名駅⑮系統「砂田橋」行きで「大幸三丁目」下車。
- ガイドウェイバス「ナゴヤドーム前矢田駅」下車徒歩10分。又は、「砂田橋駅」下車徒歩7分。

## 東山キャンパス [交通]

- 地下鉄名城線「名古屋大学駅」下車。
- 市バス「栄」から栄⑯・⑰系統「名古屋大学」行きで「名古屋大学」下車。

発行年月／2013年7月

企画編集

名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科

総務課 総務掛

TEL 052-744-2228

## 名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科

[鶴舞地区] 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地  
TEL (052) 741-2111 FAX (052) 744-2785  
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/>

[大幸地区] 〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1 丁目 1-20  
TEL (052) 791-1504 FAX (052) 719-1506  
<http://health.met.nagoya-u.ac.jp/>